

第四回館山市議定会定例会議録（第二号）

一、昭和五十六年十二月十四日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十三名

一番	神田 守隆	二番	石井 謙
四番	横溝 功	五番	福原 勤
八番	石井 昌治	九番	松下 正己
十一番	林 豊	一二番	栗原 一雄
一三番	近藤 好雄	一四番	渡辺 昭夫
一五番	伊藤 幸太郎	一七番	黒川 平治
一八番	流山 源次郎	一九番	石井 輝久
二〇番	石井 武敏	二一番	吉田 勇治郎
二二番	藤田 益治	二四番	和田 一郎
二五番	五十嵐 昇	二六番	伊賀 多朗
二七番	石井 正	二八番	安澤 徳順
二九番	安西 益男		
欠席議員 三名			
七番	古賀 礼四郎	二三番	菊井 敏博
三〇番	山口 康		

出席説明員

第一号より選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第二号）

昭和五十六年十二月十四日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時四分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十二名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（林 豊君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の十二月十日正午までに提出のありました議員、要旨及び順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

二〇番議員石井武敏君御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇） （拍手）

○二〇番（石井武敏君） 私は、本定例会におきましてすでに通告してございます七点につきまして御質問申し上げます。

第一点は、補助金や新規事業に対する行革の影響をどう考えるか。

第二点は、新年度予算編成時の津波、地震火災等の災害防止対策は、具体的にどこに力点が置かれているか。

三番目には、市民の生命を守る交通事故対策についての今後の見通しはいかに。

四点目は、保健事業について新年度はどのように進めていくか。

第五点目は、福祉事業についてはどうか。

第六点目は、若潮マラソンは公認記録がとれるような公認コースに昇格できないか。

第七点目は、東京湾横断道路の推進についてどのように考えているか。以上、七点の質問でございます。

第一点の補助金と新規事業に関しては、現在当市も新年度の予算編成期に入っているわけでありまして、さきの行革国会を通して、国におきましても地方自治体に対する補助金をできるだけ抑えて財政再建を図ろうとする方向が固められております。そうしてその影響は徐々に地方自治体に及んでくるものと思われまゝ。来年度の予算は年内編成で決着させたいという政府の見解は、とりもなおさず一気かせいにまとめる方が厳しい予算編成ができるということであり、伸び率の概算要求にはさらに大幅に切り込む方向が確認されているということなのでありますので、今後当市に及ぶ影響が心配されます。こうした国や県の動き、補助金や新規事業に対する基本的な考え方は、当市の予算編成の骨子をなすものと思われまゝ。市長はこれらの状況をどのように分析をして、どのようにとらえておるか、お伺いするものであります。

また、これから取りかかろうとする新規事業の中には、市長が任期中に特に力を入れたいと思われた事業や、公約をなさった事業もあるうかと思われまゝ。予算の枠組みの厳しい状況の中で、市長の任期も新年度昭和五十七年度途中で終わるのですが、山積されました新規事業についてどのように対処をされていくこととなるのか、市長の所信をお伺いしたいと思うものであります。

第二点の防災関係であります。ここ数年間の当市の予算編成あるいはその防災に関する施策を見ていきますと、年々充実はしてきていると思います。

現在は、整備されているものとしては耐震性の井戸が二カ所、そして浄水機が十基、発電機が三台、防災火災ポンプが六基そして行政無線の設置が基地一局、車載用が六局、携帯用が十四局このように整備をされてきております。

地域防災計画も徐々に整備をされてきておると思いますが、先般千葉のニューバークホテルで開かれました日本の地震予知と今後の対策という講演で、東京大学の地震研究所教授茂木氏は、地震発生の可能性について次のように述べております。「マグニチュード五以上の地震は五十二年間起きていないが、異常な長さである。きょうあすにも大きな地震があってもおかしくない状況である。当面の対策としてはブロックべいを補強したり、家の中で倒れそうなものを固定するだけでも被害はかなり防げる。一人一人がまず身の回りから見直してほしい」と述べております。

このように、防災対策は施策と住民が一体となったところに大きな効果が生まれてくると思います。さて、新年度におきます防災はどのように進められていくおつもりであるか、お考えをお聞

かせを願いたいと思います。

次に、交通事故対策でありますが、これは直接生命に及ぶものであります。最近の当市の事故の発生件数を見てみますと次のようになっています。昭和五十四年度は二百四十四件、昭和五十五年度は二百六十六件、昭和五十六年度は十月末で二百五十六件となっております。

そして、昭和五十六年度の十月末の本年度の交通事故発生状況を、これを地域別に見てみますと、北条が百九件、館山が四十九件、館野が二十二件、那古が十七件、船形が十六件、豊房が十四件、神戸が十三件、九重が六件、西岬が八件、富崎が二件と、合計二百五十六件であります。この事故による死者が十名、負傷者が三百四名となっております。

そこで、事故の原因はさまざまありますが、自動車の走行中の前後左右の安全確認という運転の基本を怠ったものによる事故が多いようです。また最近では自転車の台数も増加してきておりますので、なお一層の安全対策を充実していただきたいと思うのであります。新年度の交通安全対策はどのように考えておられますか、御質問いたします。

第四番目であります。当市におきます保健事業は、県内におきましても他市と比較してはすぐれた成果をおさめておると思います。当市は、一、成人病を対象にしての検診事業、二、乳幼児の育児相談の二点を柱にして進められてきております。特に当市は、予防検診事業についてより多くの検診者を集めて、その検診の内容、成果を含めて大きな成果を上げていると思います。

また、最近の傾向として、病気になる前に健康づくりをしよう

という考え方はごく一般的になってきました。こうした健康づくりに多くの関心を持たれている中で、新年度におきます保健事業はどのようなものを計画なさっているかという点について御説明をいただきたいと思います。

第五点目は、福祉事業についてであります。本年度の国際障害者年には障害者の平等と社会参加をテーマに各種の運動が繰り広げられて、それぞれの成果をもたらしてきたと思いますが、障害者を大事にしようという趣旨がこれから具体的に施策の上で、また日常の一般の生活の中にあらわれていくことになると思います。

そこで、新年度においてはどのような施策が期待できますか、お聞かせ願いたいと思います。また母子家庭、父子家庭、生活保護者家庭についてどのような対策が考えられておりますか。いずれにしても、社会的に弱い立場にいる人は温かい施策の上で守っていかねばならないと思います。新年度はゼロシーリングと言われる財政の背景を考えてみたときに、福祉の面の施策は後退させないようという基本的な考え方に立って予算編成にあたっていただきたいと思うものであります。以上の点、御質問いたしますが、市長の御所見をお伺いしたいと思います。

なお、福祉施設の充実という面から、老人福祉センターの施設整備について新年度におきます対策方はどうでしょうか。あわせてお伺いいたします。

第六点目は、南房総館山若潮マラソンについてであります。新年度は第二回を迎えるわけですが、第一回大会の成功を基礎にしまして、ますます事業の発展を願うものであります。自然環境

に恵まれた風光明媚なこのコースに集まってくる人々も年々多くなつてくると思っています。今後このコースを魅力あるものにするためにも、また実質的に体育の向上に役立つ行事にするためにも公認記録のとれる大会に昇格させたらどうかと思ひますが、この点に関する御所見をお伺いしたいと思ひます。

最後に、七点目ですが、東京湾横断道路の推進についてであります。この件に関しましては、新兩國花火大会としてすでに花火の予算が昭和三十八年から載つてきております。申すまでもなく、兩國というのは富津市と横須賀市の二市をさしてあります。打ち上げ花火は一日も早く横断道路が完成されるようにという願ひがこめられておりまして、今日まで定期的に打ち上げられてきたものであります。

この横断道路は、房総半島の将来特に当市の発展には欠かせない大変大きな事業であります。またこの事業は当市ばかりではなく、千葉県総力を挙げて取り組むものであると思ひますが、当市の影響大なるを考へまして、あえて質問申し上げます。

一、市長は、この横断道路の建設をどのように評価をしているか。二、建設推進が協議されているのはどのような団体か。三、その協議会の中でどのような推進方がいままでなされてきたか。四、事業の計画の現況はどうか。五、今後の推進においてはそのような進展が期待できるかというこの五点について御質問申し上げます。

以上、大きな項目で七点でございますが、市長の簡明なる御答弁をいただきたいと思ひます。答弁によりまして再質問をしたいと思います。以上です。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点、補助金や新規事業に対する行革の影響をどう考えるかという御質問でございますが、御案内のように政府は行政改革を推進するため、さきの国会におきまして行革関連特例法を成立させまして、五十七年度予算の編成に取り組んでいるところでございます。

当市といえども、予算編成の最も基盤となります歳入の捕捉は、あらゆる情報を参考として把握に努めているところでございますが、国庫補助金につきましては具体的な内容がまだ示されない現状でございます。

また、本年度後半の国の租税等の収入状況は当初予測より下回る見通しから、来年度の国家予算はより一層厳しい情勢が感じ取ることができそうです。

このような背景から、来年度の国庫補助事業につきましては、実施事業年度の繰り延べ、補助基本額の引き下げあるいは補助基本額の固定化に伴う事業量の縮小など何らかの影響があるものと思ひなければなりませんけれども、いづれにしても、各省庁からの概算要求の段階では判然といたしておりませんので、大蔵省原案、各省庁との折衝の推移を見守りながら、今後とも国、県との連絡を密にしながら、五十七年度予算の編成に取り組んでいきたいと思ひます。

私が公約をしておりましたもので、これから着手しなければならぬ事業の見通しについての御質問でございますが、主なもの

を申し上げますと、まず、ごみ処理場につきましては、五十七年度から着手すべく地元の同意も得ており、また都市計画法上の位置指定も得て、補助金の決定があれば着工できる段階にきておりますので、今後も早期建設を目指して努力してまいりたいと考えております。

次に、上水道の整備のうち館野、九重地区の給水計画については水源調査を実施中でございますので、水源を確定した後に計画に移す所存でございます。

また、下水道整備につきましては、基本計画の策定について検討中でございます。

次に、一二七号バイパスの関係につきましては、御承知のように本年四月から都市計画課を新設し、鋭意計画を進めているところでございますが、過日都市計画道路を国道一二七号館山バイパスに一致させるための都市計画変更が決まりましたので、今後は国と提携を密にして早期実現に向かって努力したいと考えております。

次に、館山駅周辺の市街地整備につきましては、五十五年度から館山駅周辺市街地整備調査を開始いたしました。駅西口地区におきましては五十六年度及び五十七年度に土地区画整理事業調査を実施する計画でございます。また駅東口地区につきましても、五十六年度に市街地再開発等調査を実施しており、関係住民のコンセンサスを得るべく懇談会、研修会等を繰り返し本年、明年度も行う予定でございます。両地区とも関係住民の御理解と御協力を得られた時点で事業に着手したいと考えております。

以上申し上げました事業につきましては、いずれも本市が解決

しなければならぬ課題であり、厳しい財政事情の中で財源との調整を図りながら早期実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

大きな第二点、新年度予算編成時の津波、地震火災等の災害防止対策についての御質問でございますが、現在新年度予算編成中でございますので、流動的でございますが、基本的な考え方としては、大規模地震に備えた防災対策は、地震対策基礎調査を資料とし、地域自主防災の醸成並びに防災資機材の整備を図っていきたいと考えております。

まず、地震対策基礎調査を資料といたしまして、各町内を単位として自主防災懇談会を開催いたしましたので、自主防災組織づくりを推進いたします。また防災資機材を年次計画で整備をしてまいりましたけれども、この補完事業として飲料水確保のための浄水機、飲料水槽、発電機等を整備を図るつもりでございます。

津波対策につきましては、被害想定に基づいて津波対象地域の確認、警告、避難場所の確保、連絡網の整備を図るつもりでございます。

大きな第三点、市民の生命を守る交通事故対策についての御質問でございますが、御指摘のように館山市の交通事故件数はここ数年来年々増加をいたしております。その内容を見ますと、運転者のマナーの悪さに起因するものが目立っている現状でございます。市としては交通安全対策といたしまして、年次的に交通安全施設整備を図る一方、交通指導員による交通安全確保及び交通安全意識の高揚を図っております。

大きな第四点、保健事業についての御質問でございますが、今

後成人病対策といたしまして、住民検診の内容をより充実するため、各種検診と一括した総合検診事業を推進してまいります。また一方、保健婦による訪問体制を充実していく方針でございます。

従来、市民の健康管理のためがん検診、結核検診及び循環器系検診等を実施しておりますが、検診回数が年三回ないし四回となりますので、受診者の利便を考え、これら検診を一回で行える総合検診、いわゆる半日ドックでございますが、これを医師会及び医師会病院の協力により推進しようと考えております。このためのテストケースとして一部地域を選定をいたしまして実施する計画でございます。

また、乳幼児の健康相談と育児指導につきましては、一歳六カ月及び三歳児の定期健康診査と保健婦による訪問指導を行っておりますが、保健婦等専門職の充実によりまして、さらに訪問体制を充実させ、母親とのコミュニケーションを図りながら乳幼児の保健、育児相談と障害児の早期発見に努めますとともに、テレビ新聞等による健康づくりの情報も多く提供されておりますので、その地域に合った、また年齢に合った健康管理を啓発していきたいと考えております。

大きな第五点、福祉事業についてでございますが、まずその第一点の予算の編成でございますけれども、基本的には御指摘のように福祉が後退することのないような予算編成をしたいと考えております。現在厚生省の概算要求に見られますように、制度及びその内容が検討されておりますので、この結果を得まして市としての対応を考えていきたいと思います。

御質問の第二点の障害者対策でございますが、これも従来の中

施策をより一層充実するように図ってまいりたいと考えます。本年度実施いたしました障害者一、二級でございますが、その実態調査におきまして新たに要望されたもののうち対応できるものはすべて実施をしてまいりました。また給食希望等につきましても社会福祉協議会に依頼し、実現のために努力をしているところでございます。このような障害者の自立更生のための補装具の交付を初めとする要望は本年も引き続いて実施をしてまいりたいと考えます。また昨年四月から実施をしております肢体不自由児に対します機能回復訓練事業もより内容の充実を図りつつ引き続き実施をしていきたいと思ひます。

三点目に、母子家庭、父子家庭、生活保護家庭についての対策の御質問がございましたが、母子家庭につきましては児童扶養手当の支給、修学資金を初めとする資金の貸付制度がございしますが、これらにあわせて母子家庭医療費の助成制度の周知と活用の推進を図ってまいります。

父子家庭につきましては、母子家庭から見ますと財政的には確かに恵まれていると思われれますが、育児を初め食事、洗たく等日常業務に大変な負担がかかっていると思ひます。現在父子家庭対策はございせんけれども、今後こうした状況を踏まえ実態調査を行い、前向きに検討してまいりたいと考えます。

生活保護対策でございますが、生活困窮家庭に対します生活保護費は法に基づき国において地域別に一級ないし三級に分かれておりますが、地域別に定められておるわけでございます。現在は標準世帯で十一万六千八百八十二円となっておりますが、厚生省案では昭和五十七年度は六・五%の上昇を見込んでおるところでござ

います。

第四点目の老人福祉センターの施設整備についてでございますが、来年度におきましては建物等の一部及び備品の保全のための修繕を行う予定でございます。

質問の大きな第六点、若潮マラソンについてでございますが、館山若潮マラソンにつきましては昨年度二十キロメートル及び十キロメートルのコースで実施をいたしました、本年度は二十キロメートル及び十キロメートルのコースにして実施する計画でございます。なお、公認コースにつきましては、距離に伴う地形や折り返し点や交通状況等を考慮しなければなりませんので、今後検討したいと考えております。

大きな第七点、東京湾横断道路の推進についての御質問でございますが、御質問は富津市と横須賀市を結ぶ、いわゆる横断橋と思えますけれども、その後の社会情勢や環境の変化等から木更津市と川崎市を結ぶ横断道路計画がクローズアップされて、すでに各種調査が進められる中で、本年国道四〇九号として認定されたところでございます。

この東京湾横断道路は、千葉県の半島性を大きく変化させ、過疎問題を抱える南房総に力強い活力をもたらすことが期待でき、また首都圏のレクリエーションゾーンとしての利便性を飛躍的に高めるとともに、豊かな自然に溶け込んだ定住圏としての熟度を高め、さらに流通条件の改善により近郊農業や栽培漁業への転換が進み、生鮮食料品等の供給基地としての地位が高まることが期待されるなど、南房総の発展のため、また本市といたしましても県南地域の中核都市としてより一層発展するため、この事業化に

大きな期待をしているものでございます。

次に、この事業につきましては、国が事業主体となって進めておりますけれども、現在は日本道路公団がこの事業に関する各種調査等をいたしております。

本県におきましては、県を初め東京湾岸の関係市町村を中心として、その促進方について関係方面に働きかけているところでございます。また本市が加入しております京葉地帯経済協議会もその推進につきまして関係方面に陳情しているところでございます。それらの結果から、横断道路が国道四〇九号として認定され、今後その促進が期待されるところでございます。

事業の計画の現況でございますが、東京湾横断道路は木更津と川崎市の十五キロを結ぶ計画ということでございますが、現況は先ほども申し上げましたように、昭和四十一年度から国におきまして調査に入り、現在は日本道路公団によりまして引き続き行っているところでございます。

調査内容につきましては、経済、社会への波及効果や設計上の問題、また環境問題等あらゆる面からの調査ということで、本年度まで約六十四億円の予算をもって各種調査を進めている段階でございます。

今後の推進についてでございますが、東京湾横断道路は海を渡る工事の性質上、最も長い工期を要し、おおむね十一年から十二年ぐらいかかるとされておりますので、完成までにはまだ相当の期間を要することになると思われれますが、南房総の発展のため早期実現方を関係方面に働きかけてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

〇二〇番（石井武敏君） 第一点の補助金や新規事業に対する行革の影響は非常に厳しいものがあるのとらえているようでありますが、先ほど御答弁の中にありました、予算編成にあたりましては、福祉の後退がないように特に御配慮をしていただきたいということを重ねてここで御要望申し上げておきたいと思ひます。

それから、市長の公約なされたもので、これから取りかかろうとする事業につきましてはごみの処理場であるとか、上下水道事業、それからバイパス、それから館山市の市街地整備こういったものにいま事業の項目別に御答弁がありました。

私は、今回の定例会を前にしまして、いまだ一度市長が公約をなさったものをもう一度振り返って勉強してみました。昭和四十九年に市長選に出馬をされました際に次の点を強調されて、公約をなさっております。

第一点は環境の改善であります。第二点は教育の振興、第三点は福祉の充実、第四点は産業の振興、第五点は観光の開発というように、この五点を骨子にされて公約を発表されました。そして昭和五十三年の十二月に再選されました後に、特に二期目に入って力を入れていくという事業としてさらに何点かを挙げられております。私は市長が公約に基づいて一つ一つ着実に実績を積み上げてきていることはよく理解します。

私の質問は、こうしたこれからさうとする事業が、ただいまの説明によりまして明らかにならずに昭和五十七年度までどこまで手がけることができるか、どこまで形づくることのできるか、御答弁の中では早期実現に努力をしますという姿勢がうかがわれますが、いずれにしても、昭和五十七年度には二期目の任期

が終わるわけでございます。当然ただいま御答弁をいただきました各諸点におきましてもその大半が残されるように私には感じられるんですが、また任期が終了してしまったのでは、これらの事業はみずからの手で行えなくなるわけでございますので、当然のこととして市長選の三期目を目指して出馬をなさり、所期の目標を完遂するために努力をしていくという含みのある御答弁でしょうか。先ほど御答弁では残された事業に関しては早期実現に努力をしていくという方向がうかがえましたけれども、その点明らかにしていただきたいと思ひます。

それから、防災計画についてであります、特に耐震性の井戸は、これはその活用の仕方から見ても当然水質の関係が出てくると思ひます。これは飲料水として適当でなければならぬということとで、館山市の全域を見ましてもその五〇％が現在の井戸から出る水は飲料水として適当でないというように非常に厳しいデータが出ています。ですから耐震性井戸と水質の関係特に私は耐震性井戸と浄水機を組み合わせるべきでないかというように考えるんですが、その点の考え方をひとつ御説明願ひたいと思ひます。

〇市長（半澤良一君） 来年度の予算編成にあたりまして、それを自分の手でやるかどうかという御質問でございますが、ということとは、来年度の十二月任期が切れるわけでございますが、それに三選をするのかどうかという御質問でございますが、大変むずかしい問題でございます、これは本人がいくらやりたいと思ひても、なかなか周囲の事情等いろいろございまして、そういうわけでもございません。

（「遠慮することはない」と呼ぶ者あり）

いまの段階では何とも御返事のしようがございませんが、いずれ周囲の状況等を考え決断をいたしたいと思えます。その節はひとつ公明党議員でございます石井さんを初め皆さま方の御協力を得たいと思えます。（拍手）

○民生部長（鈴木 力君） 耐震性井戸付貯水装置の問題でございますけれども、耐震性井戸付貯水装置を設置する場合におきまして、やはり飲料水として適当な場所を選定する必要があるわけでございますが、耐震性井戸付貯水槽につきましては一応簡単な処理できる装置はあるわけでございます。たとえば除鉄、除マンガンあるいはまた滅菌装置あるいはろ過装置こういったものはこの装置に設置されるわけでございますが、しかしながら全般の飲料水として適当な水質であるということが要件でございますので、この選定にあたりましては非常にむずかしいわけでございまして御指摘にございましたように浄水機との組み合わせでできないかという御質問でございますけれども、一応浄水機で浄化する程度のもものは貯水装置に設置されるわけでございます。

そういうようなことでございまして、現在三番目の貯水装置の設置につきましていろいろ検討しておるわけでございます。特にいままでの水質検査の結果を見ますと色度とか濁度、塩素イオン有機物質あるいはベーハーこういったものにつきましてそれぞれ検査をしているわけでございますが、なかなかこの検査項目に適合しないという場所が多いわけでございまして、現在におきましても用地の選定にあたっておるような次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） 特に今回の通告質問を通じて、私は

防災関係をも少し質疑をしたいと思えます。

手もとに、館山市地震対策基礎調査報告書があります。この報告書によりますと、このように出ております。その末尾にあります。八〇ページであります。一般に、行政は、このような危険度の公表をはばかる気風もあるが、館山のような特に厳しい地震環境にある地域では、逆にそれを市民に十分認識していただき行政、市民両者が一体となって地震とその事後の諸問題を考えていただきたい。末尾にあたり、このことを強く切望する。」というところで、この基礎報告書が終わっております。

ここにありますように、一般的に考えると館山に地震がくるんではないかという不安、これはそういった危険度の公表をはばかるということ、確かにそういう気風は考えられます。特にここで強調されておりますように、館山市のように特に厳しい地震環境にある地域では、逆に市民にそういった点等をよく理解していただいて、そうして行政と市民が一体となって問題解決に行くべきだ。こういうようになっていくわけでございますが、私はそういう市民も、行政もこうした問題に關しまして正しい認識を持つて進めていただきたい、進めていかなければならないというふうに考えるわけでございます。

そこで、御質問としましては、特に地震事後の初期消火に關しまして、いま各家庭ではおのおのが消火器をそろえているところもあるし、そろえてないところもあるんですが、全般的にいいましたこと、そろえてない家庭が多いように思うわけでございます。そうしたことを行政の側から見てどのようにお感じになりますか、何か行政でそれに対してやってあげることとはできないでしょうか。

それから、これはいままでの地震の起こった地域で特に目立ったケースですが、ブロックべいの倒壊というのが挙げられております。この点に関しても具体的に行政の立場から見てどういうふうに考えられますか、御質問します。

○民生部長（鈴木 力君） 地震時の初期消火ということとは非常に大事なことでございます。そのためには各家庭におきまして平素からそのようなことで心がけていただくことが大切でございますが、特に御指摘のございましたような消火器の備えつけといういうようなことも大きな初期消火の目的を達するための大事なことでございまして、これにつきましては従来から各町内会あるいは消防団を通じて設置の推進を図っておるところでございまして、市内におきましてかなり普及されてきておるといふふうに聞いておるわけでございますが、市といたしましては今後とも機会あるたびに各家庭に呼びかけしてまいりたい。このように考えておる次第でございます。

次に、ブロックべいの点検でございすけれども、これにつきましては過去昭和五十三年に学校周辺を中心といたしまして、特に避難場所周辺二十一カ所について点検を行ったことがございすけれども、今後におきましても危険個所の点検を実施いたしまして、特にこれから予定しております町内会ごとの地域懇談会等におきまして、このブロックべいの点検につきましては特別にお願いをしてまいりたい。このように考えております。

○二〇番（石井武敏君） この初期消火とブロックべいにつきまして、ただいま御答弁いただいたわけでございますが、何か行政としての働きかけが非常に弱いように感じられます。もっと市民に

啓発していくために具体的に施策をひとつこで検討していただきたいということを要望しておきます。

それからもう一点、最近防災特に地震に関すること、津波による被害が非常に注目されて最近研究されてきておりますが、当市におきます、もしも地震が起こったときに津波によるどのような被害想定ができるか。またそれに対してどういふふうにしていくかということでありますが、防災の中でいまままで津波に関しては私も通告質問では取り上げなかったんですが、今回どのように対処されていくか、またどのような被害想定を持っているか、ここで御説明をお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） 津波による被害でございすけれども先般二カ年にわたりまして実施をいたしました地震対策基礎調査におきまして、その報告書に出ておりますけれども、津波の被害につきましては震源地の遠い、近いによりまして異なるわけでございすけれども、過去元禄地震におきましてマグニチュード八・二で館山平野は津波の波高が五・六メートルでございまして、標高四・六メートルまでの浸水がなされております。相浜におきましては津波の波高が十メートル、標高五ないし六メートルまで浸水しております。

それから、関東大震災におきましてはマグニチュード七・九で館山平野は波高が一・八メートル、洲の崎で四ないし七メートル、相浜は七ないし九メートルと、このように言われております。

したがって、標高五メートルぐらゐまでは浸水するものと思われています。特に平久里川添いあるいは相浜の巴川川添いにつきましては大きな被害を受けるのではなからうかということ

が指摘されております。

影響を受けるであろうという人口でございますけれども、これもこの地震対策基礎調査の報告によりますと、推計でございますけれども、船形付近で約千八百人、那古、川崎にかけまして約三千百人、平久里川川添いで約二百人、八幡から柏崎にかけて約四千八、合計しまして約九千八百人以上の影響を受ける人口であろうというふうに指摘されておるわけでございます。

特に、老人ホームとか、学校がある場所におきましては、これら津波の避難のことが今後の課題であろうというふうに指摘をしております。

それからなお、巴川を初め平砂浦低地の標高五メートルのフラワールインの幾つかの橋の影響があるということでございます。それから、次に、海水浴シーズンにおける海水浴客の問題として、避難誘導という問題が手ぎわよく行われない限り大きな被害が予想される。このようなことが地震対策基礎調査の報告の中で指摘されている事項でございます。

○二〇番（石井武敏君） 当市も、地震対策の基礎調査の報告書ができ上りまして、被害想定もでき上っておりますのでございますので、いよいよそれらに対して具体的にどういう施策を講じていくかという具体的な段階に入っていると私は思います。どうか、そういう点で早い機会に取り組んでいただきたいと思うんですが、耐震性井戸は新年度昭和五十七年度に予定されているのは何カ所で、場所はどこでしょうか。

○民生部長（鈴木 力君） 耐震性井戸貯水装置の設置につきましては、先ほどお答え申し上げましたとおり、まず水質のよい、

しかも水量のある、それからなお用地としましては避難場所として収容できるある程度の面積を持った公共用地を一応考えておるわけでございまして、そういうような観点から、おのずから場所につきましては制約を受けるわけでございますので、来年度はぜひひとつ適当な用地を選定をいたしたい。このように考えておるような次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいまの御答弁では、場所を選定するのに大変時間がかかっているように答弁からうかがえるわけでございます。こうした基礎調査の報告書もできましたし、万一地震がきた場合にこういう被害がある想定もできたわけでございますので、五十七年度いっぱいどこにつくったらいいかということをお調べになっていたんでは、期間的に大変長過ぎはしないか、もっと早く進めるべきではないかという感じもいまの質疑の中で持つわけであります。こういうことで要望申し上げるわけでございますが、こういうように下調べができて、いよいよ五十七年度からそれを具体化していく年に入っているわけなんで、早い機会に、耐震性井戸を一つとっても一年がかりで調べて、設置するのは五十八年、五十九年ということではなしに、ひとつこの点は早期実現をしていただきたいということを御要望申し上げます。

それから、保健事業に關しまして先ほど御答弁受けたんですが、この中で総合検診をしていくということで、大変いままでばらばらに行っていた検診を一括にまとめて行っていくということで大変いいことだと思えますが、これは現在こういう方式をとられているところがどうかあります。またこうした総合検診の問題点とか、課題とかそういった点で現在お調べになっていることがあり

ましたら、ここで御答弁いただきたいと思ひます。

それから、保健婦が保健事業をしていくという御答弁がありましたが、現在館山の保健婦は何人でしょうか、お答え願ひたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 現在、総合検診を実施しております近隣の町村でございますけれども、五十六年度におきましては鴨川市、丸山町、千倉町、天津小湊町、和田町以上五市町村が総合検診を実施しております。

次に、総合検診の問題点でございますけれども、これは結核検診、胃がん、婦人科、乳がん、循環器系そうした検診を一回で総合的に半日ドック的に実施するわけでございますけれども、受診される方も大変短時間で検診が受けられますので、利便があるわけでございますが、問題点としては、やはり医師会の先生方の御協力を得なくちゃいけませんので、短い期日に、短い時間を実施する場合におきましては、なかなか御協力をいただく大変だということがございます。なお、総合検診につきましましては検査項目も多いわけでございますので、これを一挙に実施するということになりますと、かなりいろんな面で努力をしなければならぬ面があるわけでございます。以上が総合検診の問題点でございます。

それから、現在館山市におきます保健婦の数は六名でございます。

○二〇番（石井武敏君） この保健婦の数は、六名ということと事業を推進していく上に少な過ぎやしませんか、どうですか、お答えをお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） 保健事業を推進する上におきましては現在の保健婦六名ではいささか不足しているというふうに見ていくわけでございます。これから保健事業を一層充実させてまいりたいということからいたしましても、若干の増員をお願いできればありがたいと、このように考える次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） 保健婦の数は厚生省で定められた数があるんではないかと思ひます。たとえば、人口割とか、実情に依じて定められた枠組みがあるように思われます。その枠組みから比較しますと、館山はどのようになっておりますか。また五十七年度は何人増員するおつもりですか。

○民生部長（鈴木 力君） 人口割の保健婦の設置数につきましては、ただいま資料を取り寄せましてお答え申し上げます。

来年度の保健婦の採用につきましては、大体二名ないし三名程度を考えておるわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） 質問を先に進めますが、若潮マラソンのコースは今後検討していくということで、いろいろ距離とか、地形、交通量そういったものを総合して決めていかなければならぬということですが、ぜひ公認コースになるように努力をしていただきたいという、そういう点で特に要望を申し上げます。

資料がきたようですから、お答えをお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） いわゆる保健婦の設置の基準につきましては、人口比による割合というものは現在のところ厚生省では設置されておられません。基準がないというわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） いずれにしても、当市の目指す保健事業の規模からしては少ないことは明らかでございますので、ひとつ

増員の方向で御検討をいただきたいと思ひます。

なお、東京湾横断道路の推進につきましては、大きな問題で当市ばかりが背負う問題ではありませんが、ひとつ推進方をよろしく願ひしたいと思います。

それから、交通事故対策についてでございますが、この点も千葉県は全国で有数の事故発生死亡率の高い地域でございますのでひとつ千葉県の中でも模範ある、館山の交通の事故の発生率が少なくなつたというひとつ模範を示していくように当局としても努力をしていただきたい。かように考える次第でございます。

以上、御要望申し上げまして、私の質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、二〇番議員君の質問を終わります。

次、一番議員神田守隆君御登壇願ひます。

（一番議員神田守隆君登壇）（拍手）

○一番（神田守隆君） すでに通告してあります三点について御質問いたします。

第一点は、新年度の予算編成方針についてであります。

臨時行政調査会第一次答申及び政府の予算編成過程を見るとき福祉、教育など国民生活に直結した分野でさまざまな切り捨てがやられようとしています。いわく、教科書有料化、老人医療無料制度の廃止、児童手当の所得制限の強化、年金支給開始年齢の繰り上げ、国民健康保険の療養給付費の都道府県への一部負担転嫁などなどであります。市の財源の削減も深刻な問題であります。いまそればかりか、地方自治制度そのものをなくしてしまうことまでも論議されているありさまであります。年三兆円にも及ぶ大資本優遇税制など大資本本位の財政政策を改め、軍備拡張をやめれ

ば、国民の犠牲なしに国の財政再建は可能です。福祉と教育そして地方自治を守る国民運動を広げなければならぬのはいまだと考えます。こうした立場で、市長の所信をお聞かせ願ひたいと思うわけであります。

市長は、九月議会で私の質問に答え、臨調答申に言う歳出の削減策で、地方への負担転嫁になるものには反対だ。また福祉の水準は後退させないと強調されましたが、現在でもこの点について御確認をいただけるものかどうか、お聞かせを願ひたいと思います。

次に、福祉、教育をめぐる諸点についてお聞きいたします。

老人医療費と老人の健康問題についてであります。病気になるでも手遅れにならないうちに医者にかかるから、老人医療費の無料制度は医療費負担を抑える働きもあるんだという点を指摘しておきたいと思ひます。

いま、国民健康保険の保険料の負担を減らす上で、市町村のレベルで重要なことは、老人の健康を守る予防医学やリハビリなどの充実ではないかと思ひます。寝たきり老人の入浴の効果は老人の健康の上でどんな治療にもまさるということを指摘する医者もおるわけであります。たとえば脳卒中なども事前に手足のしびれなどの前兆があるわけですから、事前に防ぐことも可能ですし、不幸に倒れた場合でも適切なりハビリを受ければ社会復帰は可能です。予防やリハビリが医療費の軽減に大変重要な役割を果たしています。市としても老人の健康を守る施策それが医療費負担の軽減として還元されてくると思ひますが、その一つとしてホームヘルパー制度の抜本的な改善に踏み出すことを提案いたします。

現行では所得の低い老人だけが対象ですが、病弱で介護を必要とするお年寄りには所得の問題に関係なくすべて対象としてサービスの内容も改善するべきであります。去る十日中央社会福祉審議会は厚生省にホームヘルパー制度を全老人を対象として拡充するよう提言をいたしました。館山市は高齢化社会の先進地として積極的にこうした老人対策に取り組むことが求められます。市長の所信をお聞かせください。

乳幼児医療費の無料制度と検診体制についてお聞きします。六歳未満を対象とする当市の制度は、一部改悪があったとは言え、現在でも全国に先がけた施策として高く評価するものであります。ところが、予算編成要綱では現在実施中の単独施策については、その行政効果について再検討を行うとしています。この制度を守ることについて市長のお考えはいかにあるのかお聞かせください。また障害児の早期発見など乳幼児検診体制の充実についていかがお考えか、お聞かせください。

来年は障害者年第二年目であります。障害者対策を着実に発展させねばならないと考えます。今年には脳性麻痺児らの通園バスの運行など実施してまいりましたが、さらに機能回復訓練施設を身近に設置することなど障害者年第二年目に向けてどのような施策を実施するつもりか、お答えください。

市民生活を直撃するものに物価の値上げがあります。市の使用料、手数料について予算編成要綱の中で住民の税で負担するか、受益者の料金で負担するか検討し、適正な料金を決定または改正し云々と、値上げが示唆をされています。新年度予算編成で値上げはすべきでないと考えますが、現時点で値上げを予定している

ものは何か、お聞かせ願いたいと思います。

幼稚園保育料は安房郡下最高の三千六百元、他の町村は八百円から千五百円どまりですから、特別に高い。その上さらに四千元の入園料まで取っています。それでいて幼稚園給食を実施していないのは三芳村と館山だけであります。安房郡下で最も高い料金で、給食はなし。せめて給食は他の町村並みに実施すべきと思うのですが、いかがお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

さらに、学童保育について新年度で何らかのその方策が検討されているかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

大きな第二点は、西岬の学校統合問題についてであります。この問題では、地区住民の意向が最も尊重されねばならないことは論をまちません。私は九月議会でも、住民の意向をどのようにつかむのかと取り上げた中で、教育長は、これを決めるのはお互いの信頼関係、ことさらに事を荒だてるような手続はしない方がよいと答えているわけであります。

さて、六百四十一名の西岬住民の反対の請願署名が出されました。教育長がどう考えようと、これだけたくさんの方の反対の意思がこれまで教育委員会に伝わっていません。西岬住民の意向はこの統合経過の中では実は尊重されず無視されてきた。だから、わずか一日で六百四十一名の署名が集まった。集めた部落は早物、浜田、洲の崎、西川名の四部落であります。ここでは有権者の八割が署名をしているわけがあります。この反対の請願は、いまでも西岬住民の多くが統合に反対であることを示していると思いますが、市長はこの問題についてどのようにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

教育長は、統合は住民の反対があれば、しないということを言ってきたが、五十六年度統合がたな上げになって以降、五十七年度統合の話は教育長の方から地元に通きかけて始まったことなのか、逆に地元の方から教育長の方に働きかけがあつて始まった話なのか。この経過を理解する上で大変重要なポイントなのでよくわかるように御説明を願いたいと思います。

適正規模の教育効果ということが言われていますが、西岬の子供たちが学力において、あるいはスポーツにおいて、いわゆる適正規模の学校に比べて水準が低いどころか、むしろろっぱな実績を上げていることは市当局も十分に承知のことと思います。

教育の理想は、むしろ少人数制、小規模校であります。西岬の子供たちが生き生きと学習し、生活しりっぱな実績を上げている以上、西岬の学校規模は教育的に見て適正規模であると考えるべきで、学校規模の適正度は文部省の基準などという画一的なもので設定できるものではありません。

その文部省でさえ、学校統合についての通達の中で「小規模校には教職員と児童生徒との人間的触れ合いや個別指導の面で、小規模校としての教育上の利点も考えられるので、総合的に判断した場合、なお小規模校として存置し、充実する方が好ましい場合もあることに留意すること」と、わざわざ小規模校の教育上の利点を強調しているのです。いわゆる適正規模は教育効果の上で一つの条件ではあつても、唯一の条件ではありません。これを絶対視するのは財政優先、官吏優先の非教育的発想と言わねばなりません。小規模校の教育上の利点について当局はどのように考えているのか、お聞かせを願いたいと思います。

中学生の非行は戦後最高の事態となり深刻な事態であります。中学生の時期は子供から大人への発達の時期で、いわゆる反抗期と言われる心理的にも微妙な一時期であります。学校と家庭など子供を取り巻く大人たちの協力が重要な時期ですし、子供にとつても周囲からの適切なアドバイスが必要としています。学校はその意味でも地域との深いかわりが大変に重要であります。

非行問題は、家庭の責任、いや学校の責任とその責任の所在をどこに見るかという議論を聞きますが、問題は学校と家庭そしてそれを取り巻く地域全体の教育力をどう培っていくのかという問題だろうと考えます。適正規模になれば、生活指導を担当する教員を配置できるから、非行はないんだということには絶対にならないし、むしろそういう発想には、非行問題は専門家にまかした方がよいのだという危惧さえ感じられます。統合になれば、西岬の親は学校に出て行くのにも一日がかり、学校との関係も薄くなるばかりであります。西岬地区の教育力は目に見えて荒廃しかねません。地域の教育力の荒廃は非行を生み、学力の低下をもたらしこととなります。統合は非行を生むという問題についてどのようにお考えであるか、お聞かせ願いたいと思います。

さらに、将来の生徒数について、西岬中は五十六年百五十七名六学級が、十年後の六十五年でも百三十三名六学級と推定されています。これは単純な統計上の数字であります。この間に積極的な地域の振興策を実施し、人口の流出を食い止めるとすれば、生徒数はふえるでしょうし、逆であれば減少はもっと激しくなるであります。学校を地域に残すことは、実は地域振興策の重要な柱であると言えます。学校がなくなれば西岬地区は活気を失

い、過疎は促進され、地域の文化の発展のよりどころを失ってしまふからであります。このような学校の持つ地域的意義をどのように考えているのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。私は、統廃合なしに教育条件の整備を図るために次の提言をいたします。

西岬中と第二中学校との間は約八キロメートルありますが、西岬中は第二中学の通学区からも希望により入学できるように通学区の運用を弾力的に行う。これは札幌市で実施されていると聞きます。少人数、小規模の方の良さが見直しをされていますが、これまでの統合の発想は、この少人数、小規模の学校の子供を大規模校に入れるというもので、この発想を逆転し、小規模を充実させるために大規模校の地区の子供が小規模校に通うようにするというものであります。西岬地区の洲の崎、西川名などの子供たちが二中に通うのに比べれば、約十二キロあるわけであります。館山地区の子供が希望により西岬中に通う方がずっと問題は少ないと考えます。

第二点は、西岬中と第二中学の連絡交流を活発にし、合同授業や、あるいは交歓授業などを積極的に行う。こうした工夫で教科担任制のために生ずる専門外の授業を教えているなどという不合理も改善できるし、生徒たちが小さくまとまってしまうがちなという問題も解決できると考えます。この提言について御検討いただけるかどうか、御所見をお聞かせください。

最後に、大型店の出店問題についてお聞きします。

大型店問題は、地元小売業、商業の発展との関係でどうかという問題とともに、土地利用や都市計画、町づくりの視点という点から

も重要な問題を持っています。

商調協の調整項目は店舗面積であり、開店日であり、閉店時間、年間休日などで地元小売業との調整を図るのみにありますから、町づくりの問題からの検討は本来この使命としていません。土地利用や町づくりにまず第一義的に責任を持っているのは市政であり、市長であります。商調協の結審があったからといって市のこうした責任は解消されません。

国土利用計画法や都市計画法にまつまでもなく、館山市宅地等開発指導要綱は「市長は、市民の生活と良好な自然を守り貴重な資源を確保するために必要と認められる規制措置を講ずることができる」と規定しています。市長は、この指導要綱や都市計画法の開発行為の規制の勧告などを発動し、事業者はその基準を順守させる必要があると思いますが、いかがお考えか、お聞かせください。

現在、通産省は、大型店問題懇談会で大店舗法の改正問題の審議を求め、年内にその結論を得るまで出店申請を自粛するの行政指導をしています。懇談会では届出制、許可制の是非など論議されていますが、市長はこうした国政レベルの動向について、現在進行中の当市の調整とどう位置づけ、関係づけているのか、お聞かせ願いたいと思います。

以上、三点にわたり御質問申し上げましたが、御答弁により再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一点、昭和五十七年度予算編成についての御質問でこ

さいますが、御指摘のように基本的には現在の福祉水準を堅持していきたい。そういう予算を組みたいと考えております。御指摘のように厚生省の概算要求においてはいろいろな歳出削減が考えられ、それぞれの方策を講じているわけでございますけれども、その内容等につきましてはまだきわめて流動的な要素がございまして、この推移を見たと対応は考えていきたいと思っておりますが基本的には現在の福祉水準を守っていくべきだと考えております。小さな第一点の御質問でございますが、老人医療の無料制度と老人の健康問題についての御質問でございますが、明年度も本年度に準じた老人医療の無料化の制度の予算措置をしたいと考えておりますが、また健康問題については老人保険法の制度化にあわせて基本的には考えていきたいと考えております。

無料化の問題については、老人保険法が国会で継続審議中でございますので、法制化が決定した段階で、その内容により予算措置をいたしたいと考えているわけでございます。

健康問題でございますけれども、特にリハビリの問題でございますが、現在市内にリハビリ施設のある病院が三カ所ございますけれども、この実態を見ますと、入院中は医師の指導でリハビリを行っておりますが、退院しますとやめてしまうなど患者自身の受けとめ方の方にも問題があるようでございますので、いま直ちに市でリハビリの施設をつくるというようなことは考えておりません。

また、現在の段階ではヘルパーの問題につきましても、健康管理のみの派遣ということは制度上考えられないわけでございますが、在宅福祉という観点からこの問題については今後別途検討を

していききたいというふうに考えております。

乳幼児医療費無料制度とその検診体制充実の問題でございますが、乳幼児医療費の支給については現行どおり継続をしていきたいと考えております。これは昭和四十七年度から次代を担う子供を健康で、元気に育てるために乳幼児疾病の早期発見、早期治療と自己負担額の軽減を目的として支給されているわけでございますので、これも引き続き実施をいたしていきたいと考えております。

また同時に、保健婦による訪問指導と各種検診体制を強化していききたいと考えているわけでございますが、先ほど石井武敏議員にお答えいたしましたとおり、保健婦による訪問体制を強化をいたしまして、成人病はもちろん乳幼児の検診体制をも充実していきたいと考えているわけでございます。

障害者対策の充実でございますけれども、これは本年度実施をいたしたわけでございますけれども、肢体不自由児の機能回復訓練のために千葉リハビリテーションセンター及び君津のあゆみ園に通所するためのマイクロスバスを運行しているわけでございまして、あわせて特別養護老人ホームのリハビリ室を開放いたしましたリハビリを実施しているわけでございます。また保母二名もこれに協力させております。五十七年度はこれらの事業を継続いたしまして、あわせて訓練用具等を整備をしていきたいと考えております。

それから、使用料、手数料等の公共料金の値上げの問題でございますが、この使用料、手数料の受益者負担につきましましては、従来からその適正化に努めてまいったところでございますが、本来

使用料、手数料は特定の者に対する役務の提供、施設の使用の対価として徴収するものでございますので、今後ともそれぞれ施設の維持管理あるいはその事務に要する費用等を勘案しながらその都度考えてまいりたいと思っております。

幼稚園の保育料と給食の問題でございますが、保育料につきましては国において地方交付税算定の基準とした保育料額三千六百元を市においてもその国の基準額にあわせて徴収しているものでございます。

また、幼稚園における給食実施につきましては、現有給食センター施設では不可能でございます。

第六点の学童保育の問題でございますが、これに関しましては九月議会におきまして御答弁いたしましたように、対象児童がきわめて少ないということから、来年度予算におきましても予算は現在計上いたさないつもりでございます。

大きな第二点、西岬地区の学校統合問題でございますが、第一点は西岬住民の意向の尊重はどうなされたかという御質問でございますが、この点につきましては本年二月から西岬地区コミュニティ委員会と二十数回にわたって話し合いを重ね、その都度資料を示して御説明をいたしましたところでございます。一、二の反対を除き大方の御理解を得たものと理解をいたしております。

第二点の、いわゆる適正規模学校は果たして教育的かという御質問でございますが、この点に関しては教育長の方から御答弁を申し上げます。

大型店の出店問題でございますが、町づくりの立場からどう考えるかという御質問でございますが、館山市は安房郡市の中の中

核都市でございますので、これにふさわしい都市づくりというところで従来努力をいたしましたところでございますが、この大型店の出店については都市施設、環境整備等の推進を図りながら、全体的な都市の機能活動の中で今後とも考えていきたいというわけでございますが、その建設については御指摘のいろいろな諸法令にございます基準をもちろん順守させるつもりでございます。

小さな第二点の大型店の改正をめぐる動きについての御質問でございますが、通産省におきまして大型店出店の適正化、調整の円滑化等を図るため関係者から成る大型店問題懇談会を設けまして鋭意検討中でございますので、当市といたしましても、現在の情勢に即応した適切な答申がなされるものと期待をいたしているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 西岬地区学校統合問題の二について申し上げます。

まず、適正規模ということでございますけれども、現在西岬中は生徒数は百五十八名で、職員数は校長、養護教諭及び事務職員のほかに実働教員は十名であります。そのうち一教科のみ担当している者が二名、二教科だけ担当しているのが五名、三教科担当が三名で、全体の八〇％、十人のうち八人が専門外の教科を教えている。それから適正規模の学校では、そうした場合には一〇％ないし二〇％でありますので大きな差が見られる。

また、クラブ数も西岬中では男子四、女子三クラブで、適正規模の学校では男女おのおの十数クラブあるので、生徒自身の興味適性に応じた選択の機会が狭くなっておるわけでございます。

さらに、生徒数が少ないので生徒会活動や生徒相互の人的触れ合いの場が固定化して、適正規模に見られるような望ましい人間関係の構成が困難である。

これが適正規模の方が教育的であるという理由でございませうけれども、それは絶対視しているのかということでございますが、絶対視しているわけではございませんけれども、これは絶対的なものはないんで、人間関係ですから。

しかし、御提言にありましたように学区をはずして館山からも入学するようにできないかということや、交歓授業これはそういうところはよその国にはあるようです。これは教育の目的が違いますから、そうしたところと一緒に現在の日本の制度においては非常にむずかしい、困難性がある。

それから、地域を大事にしないかという御質問でございますが、もちろん地域を大事にし、コミュニティ活動を進めておりまして、私どもがこの統合を進めるにあたって地域の意向を確かめながらきたのはコミュニティの組織でございます。西岬中が統合しても後に西岬小として小学校を残すわけで、ここを中心として地域が教育活動あるいは地域活動するのになおすきりした形で行えるのではないかと、こういう考え方を持っております。以上。

○一番（神田守隆君）　まず、予算編成問題であります。市長の答弁の中で、現在の福祉水準を堅持するということでありますから、そのこと自身大変評価するわけであります。しかしながら、現在の国をめぐる現況というのは大変厳しいものがありますからそれだけにこうしたことが空公約にならないようにがんばっていただきたいということを重ねて御要望を申し上げます。

特に、ヘルパーの問題については在宅福祉の問題で今後検討していくことですから、大変今後の老人の健康を守る上でも大変重要な役割を持つ分野の問題だろうというふうに思いますので、ぜひ前向きな結論が出るような検討を期待したいと思っております。それから、乳幼児医療費の問題これも先ほどの市長の御答弁の内容と関係があるかと思いますが、あくまでも守っていくと、こういうことでありますから、ぜひそういうことでお願いをしていきたい。私どももそうした立場から、国あるいは県等で単独事業に対する抑制というようなことが盛んに言われているわけがあります。わが党としてもそういう問題に対して十分闘っていくかなければならぬというふうに考えております。

それから、障害者の問題ですが、障害者施策二年目というところで今後さらにいろいろな検討をされて十分な障害者施策を前進させていただきたい。こういう点で、私どもも障害者の方から幾つかの要望も聞いております。今後の予算折衝の中でもぜひそうした問題について出していきたいと思っております。

それから、物価の値上げの問題で、その都度考えていくんだ、こういうようなお話ですけれども、現時点で具体的に予算編成段階で使用料、手数料の値上げが具体的に検討されているものがあるのかないのか、その点御答弁にありませんでしたのでお答え願いたい。

それから、給食の問題について、なかなか残念な答弁で、今後ともこの問題私ども市長折衝の中で議論をしていきたいというふうに考えております。

学童保育についても残念な答弁でありますけれども、同様に扱

いをしていきたいと考えております。

中学校の統合問題についてであります。市長の答弁では二月以来二十数回にわたって相談をしてきたんだ。相談の相手はコミュニティ委員会なんだ。こういうことで大方の理解を得たというお話でありましたけれども、それではこの六百四十一名、四つの部落で八割の人が反対していること、この事実についてはどのようにお考えなのか、この点についての御答弁いただけなかったように思いますので、この請願署名の内容をどういうふうに評価しているのか、お聞かせください。

それから、教育長にはいま二月以来ということでお話がありましたけれども、一たんは五十六年度の統合はたな上げになったというところで、そのときの教育長の答弁では一時中断というお言葉で、いつ開始するのだということでも論議がありましたけれども、それはまだわからぬというお話だったわけですね。実際に二月から話が始まったということですから、この話はどこから、どこから話をかけたことなのか、きちんと御説明を願いたい。

さらに、これまでも再三論議した中で、住民の反対が強ければ統合は強行しないと、こういう立場を表明しておられまして、現時点でこうした反対があるということであれば統合についてはしない、こういう見地に立っておられるのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、統合の問題で、この地域の教育力の問題ということと全然触れられておらないわけですが、現在の非行の問題は大変深刻な問題です、また西岬の親御さんたちの一つの心配もこうした非行の問題がどうなるのかという点での不安というのも大き

な問題である。この点についてどのように考えておられるのか、私どもの指摘に対してお答えを願いたいと思うわけであります。

それから、大型店の問題であります。市長は安房郡市の中核都市ということで、館山市の都市機能の充実、こういうものを充実させなければならぬのだということで、もっともなお話だと思

います。

それで、市の指導要綱によりますと、事業者は用地買収前に市長と事前協議をし、それが調った場合は協定書を交換するというふうに触れているわけであります。市長はこれを尊重するということでありますから、当然こうした用地の買収前に事前協議がされて、協定書が結ばれているんだらうというふうに理解をするわけでありますが、そういう事実があるのかどうか。協定書があるのかどうか。御答弁を願いたいと思います。

それから、国政レベルの動きについては、国政の動きの中で館山市に合った答申を期待しているんだ、こういうようなお話であります。その問題については理解は、その答申によつてはこの大店舗をめぐる現在の商調協の調整が大いに変化をする、変わり得るんだ、こういうふうに理解をしてよろしいのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 使用料、手数料の値上げ等でございますが、現在まだ各部課から予算の要求書が出ている段階でございます、それぞれについて審査をいたしておりますけれども、考えられます手数料の値上げは、し尿処理の手数料の値上げは考えております。これは御案内のように新しい衛生センターができて、そのランニングコストがいままでに比べますと倍ぐらい高くなる

わけてございます。そのかわりきわめてすばらしい施設ができましたので、それに応じた御負担を願わなければいけないというふうに考えております。その他のものについてはまだ私も全部聞いているのが実情でございます。

それから、学校統合の問題について大方の同意を得たという答弁をしたけれども、実際あるではないかというお話でございます。確かにあることは今回承知をいたしましたわけであります。

行政というのは、美濃部前都知事ではございませんけれども、一人でも反対があればしないということでは、やはり行政というのは進まない。多少の反対の方があっても根気よく話し合いを続けて御同意を得る方向で努力しながら進めていかなければならぬというふうに私は考えているわけでございます。

今回の反対の請願が出てまいりました。それも私も一部拝見させていただきましたけれども、その中にも現在市の提案している条件では統合できないというお言葉があったように思います。やはりそういう意味で話し合いをして御納得をいただける余地があるのではないかとというふうに考えております。そういう意味で、基本的にはぜひ統合を進めていきたいというふうに考えております。

それから、大型店の協議の問題でございますが、ジャスコだけがいま現在出ておりますけれども、いずれにしても商調協の結論が決まりませんと、ジャスコ側の建物等の規模が決まりませんので、それまで保留をいたしている段階でございます。ほかの大型店につきましても、おそらく商調協の結論が出て、事業計画が進められる段階になりましたら、そうした事前協議を行うことになる

ろうかと思えます。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 五十六年度統合問題を中断した後、どういうところで話が始まったんだ、こういうことでございますが、どっちからということより、正確に言えば両方からとお考えいだきたいと思いますが、最初二月時点ということで話が始まっておりますけれども、二月時点ではまだ統合に持っていくのは無理だよという反応を私はいま思っております。その後話し合いを進めたわけですけれども、話し合いといっても、五十六年に話したのは私どもが各地区西岬の皆さんに説明して回るといふ、説得するといふ考え方でございましたけれども、本年度は二月時点話が始まったときは、コミュニティの皆さんが私どもが話し合いを進めるから、ひとつ条件その他について話し合いに、相談にのってくれというような形で話し合いが進みました。回数は非常に多いんだけれども、話は遅々として念入りな進み方をしたと、こういうふうに私は考えております。

それが、七月の終わり頃、道路建設ということでコミュニティ委員会の皆さんと話し合った、このときは市長も出てもういましたが、その時点で急速に賛成、統合の推進の方向に進んだと私は考えております。したがって、それ以後はいかにして統合をスムーズに、結局道路をどうしてつくって、皆さんの条件をどうして飲み込むかということで話し合いを進めたかと、こういうことで大きく変わってきていると私は考えております。

それが、ここに来て時期的に今議会に統合案をお願いしなければいけない時期に来ているんだ。こういうふうにお考えいただきたい

たいと思います。

それから、地域の教育力といいますが、非行化の問題に御質問の要旨を聞いていますと、西岬にいれば非行はないんだ、よそに行くとか非行が始まるんだと、西岬にいれば非常に聖地のような感じを受けますけれども、そういう地域の違いではない。大きな学校に行けば非行が始まる、あるいは都会に行けば非行が始まるというようにとれますけれども、そうではないと思います。これはあくまでも子供個人の問題と、それを取り巻く家庭の問題だと思えます。ですから、子供自身の主体的な態度と家庭のそれに対する対し方、それがあれば子供はどこにおっても非行はなくなる。こういうように私は考えますが、やはりそこに教育の問題があるのではないか、こういうふうに思います。以上です。

○一番（神田守隆君） 市長さんの御答弁で少しお伺いしますけれども、多少の反対があっても同意を得るように努力をする。一人二人という美濃部さんのお言葉でそういう話があるということは私存じませんけれども、しかし現実の認識としては多少の反対ではないと思いますね。市長は多少の反対だというふうに現在の西岬の事態を考えておられるのかどうか。

それから、請願の内容で話し合いの余地があるんじゃないかならうか、私も話し合いの余地は十分にある。むしろ十分に話し合いをしなければならぬ。いままでの経過を見る場合にコミュニティ委員会の方とは二十数回にわたって話をしてきた。ところが、それ以外の住民の方にとってはよくそのへんの経過がわかっていないわけですから、これは話し合いをしなければいけないことは決まっているわけです。その意味では、話し合いの余地が十分あるん

です。もちろんその話し合いをしていただきたいと思うんですけれども、これは決まっちゃったということではなく、あくまでも話し合いというのは決まる前に話し合うのがあたりまえの話です。それから、そういう意味で市長の答弁を理解してよろしいのかどうか。あくまでも提案は提案でこの議会の中で通すと、議会の問題もあります。私はこの議案については撤回をしていただきたい。率直な話としましてこういうような考えを持つわけです。その点についてどうなのか、お聞かせを願います。

○市長（半澤良一君） この統合につきましては昨年から進めてまいりましたわけで、これを断念したという、先ほどおっしゃったようにございますが、そうではなく、地区住民の皆さん方の御了解を得た上で進めるためには、五十六年四月統合ということは無理だから、五十六年四月の統合はこれは断念をした。しかし引き続き統合の話し合いを続けると、そういうことで来年度四月一日を目指してこの二月から話し合いを続けてきた。そういう実情でございます。ですから統合そのものを断念をいたしましたわけではないわけでございます。一昨年からこの統合の話は続いているというところでございます。さらにそういうことで、いよいよ今回タイムリミットに来ているわけでございますので、今回この提案をぜひ御審議をいただいて御賛成をいただきたい。撤回するつもりはございません。

なお、話し合いということでございますけれども、それは皆さん方反対の御理由についてわれわれの方も立場をさらにお話をし、御納得をいただくという意味で申し上げたわけでございまして、話し合いをしてどうしても反対ならばやめるといって、撤回すると

いうことではございません。

○一番（神田守隆君） 大変残念な話ですが、学校統合の問題で、あくまでも撤回ということではなく、納得をいただくという意味での話し合い、こういうことで私は住民の意向が十分尊重されたとは決して言えないのじゃないかというふうに思うわけであります。

文部省の通達を読みまして、住民の意向を無視した統合は、これはまかりならぬということをはっきりと言っているわけです。そうした事態が明らかになる場合には、国の予算処置こうした問題も含めて行政指導していくんだ。こういうことがはっきり言われているわけがあります。

現在の情勢の進行状態というのは、住民の大変に強い反対の意向があることは、これはだれが見ても明らかな事実だろうと思うんです。そういう中で強硬をすれば大変な混乱をもたらす。このことは目に見えているんじゃないかなと思うのであります。予算も国からも下りてこない。そういう中で三教室の増築これも大変な市の財政への問題にはね返るわけでありまして、そこはきちんと住民の意向をあくまでも尊重するという立場をまずはっきりさせる。このことがこの問題を解決する上の最大の現時点で必要なポイントだと私は固くこう信ずるわけでありまして、あえてそういう事態になってもやむを得ない。そういう市長の御答弁だというふうに理解せざるを得ないのでありますが、いかがでありますか。

○市長（半澤良一君） どうも、ただいま神田議員から御発言がありましたように、御理解をされては大変困ります。先ほど申

し上げましたように反対の方々の請願書を読みましたが、現在市の提示する条件では反対だと、こう書いてあります。ということは何が何でも反対だということではなくて、やはり市の提示する条件について御不満がある、納得がいただけないという意味だと思えます。こういうふうに理解をいたしているわけでございます。そういう意味で御納得をいただけるように努力をいたしたい。特に来年度予算編成からんで納得をいただけるような努力をしたい。そういうふうに考えております。

○一番（神田守隆君） そうは言っても、御納得をいただけてもやることはやるわけですね。いかがですか。

○市長（半澤良一君） 現在の段階では御納得いただけるように最大の努力をする。それ以上申し上げようもございません。

○一番（神田守隆君） 教育長の方にお伺いをいたしますが、非行の問題は本人と家庭の問題だというような御発言がありましたけれども、これは非行問題についての調査を通して非常に非行にはつきりしているんですね。これは学級規模の問題がどう発生しているかということですが、明らかに一クラス当たりの人数の多い地域で、文部省の四十五人の基準、大規模校は大体それに近い四十三人、四十四人、四十五人というような学級数。いま国際的には三十人が学級規模としては好ましいんだという議論とか、あるいは二十台という議論までされている。国もせめて四十人学級を早く実現するんだということでも国会でも議決をしているわけなんですね。

そういう中で、学級規模の問題で西岬の子供たちが現在それだけ大きな人数になっていないわけです。非常にそういう点で西岬

の子供たちは教員のクラス当たりの担当という点では大変に恵まれた条件にいます。それが統合になればそうした条件がくずれるわけですね。このこと自身は一つはそうした非行の問題これまでもうはつきり統計的に出ているわけです。四十人から四十五人とか、三十五人から四十人そういう中で非行の発生率はどうか、非常に明確な統計数値も出ているわけですから、条件が悪くなるのはこれはあたりまえのことなんです。個人と家庭の問題と言いますが、実は行政の責任はそういう教育条件を整えることにあるんじゃないんですか。非行の問題を個人と家庭の問題というですりかえるということは、教育行政の責任がこの問題についてはないというような、こういうような見解になるんじゃないかというふうに思っていますが、その点いかがお考えでしょう。

○教育長（安田豊作君）　あるいは統計的に見れば学級人数の少ない方が生徒指導が徹底すると、あるいは授業の点でも徹底するということで、いま四十人学級というのを文部省として始めておるわけでございます。行革でこれがたな上げになりましたけれども、そういう意味からいけば確かに人数の少ない方がいいだろうということは言えます。じゃ、西岬が現在三十人だから即そのとおりになるかということは、ちょっと論理が直結過ぎるような気がするんです。

というのは、さっきもお話申し上げましたけれども、一人の先生がいろいろの自分の専門でない教科も持たなければいけないんだということ、適正規模の先生が一教科しかも自分の専門の教科を三学級ないし五学級教えるんだということでは、教師の労力

の問題がうんと違います。大体一時間教えるのに三時間の教材研究が要だということですから、西岬のように一人で三学級も教えている、毎日何時間になりますか、十何時間になると思っています。教材研究をしなければいけないんだということになるわけでございますから、そういういそがしい先生の受け持つ、さらに生徒指導をその上にやらなければならぬということになりますと、これはおっしゃる通りに三十人だから生徒指導がうまくいって非行が少ないんだという論理にはすぐつながらないということを御了承いただきたいと思います。以上です。

○一番（神田守隆君）　違った視点からもう一つ御答弁いただきましたと思うんですが、やはり現在の西岬の学校統合問題の問題の一つの理解の仕方として、現在やはり人口の都市集中といえますか、そういう中で周辺地域が過疎化現象が進んでおる。西岬も一時期に比べれば大変人口が減ったやに聞いております。そういう中で地域の振興策をどう進めていくのか。産業のいろいろな振興策大変重要な問題もあるかと思うんですが、私は学校というものがこうした地域振興策の中でも大変重要な意義や役割を持っているのではなからうか。特に西岬地区では学校は歴史的に見ても、その地域における文化のよりどころというような役割を果たしているわけでございますし、そうした意味でも学校がなくなるのがより一層地域の荒廃を促進するといふ、こういうような危惧を大変持つわけであります。そういう点では、どういふような西岬地域に対する振興というものを考えておられるのか、お聞かせ願いたいと思うわけであります。

○教育長（安田豊作君）　中学が統合した後には小学校を統合して西

岬地区の文化的な中核、これは館山市の大体ほかの町村は小学校がみんな一つ中心にあるわけでございますから、ちょうどいいんじゃないか。跡地については公民館ないし体育館というようなものをして、地域の文化活動の中核広場として、これは地域と話し合ってつくっていく。そういうことで地域の振興策に、教育面から考えればなるんではないか、こういうふうに考えております。

○一番（神田守隆君） 最後の、この質問で終わりますけれども、西岬地区のコミュニティ委員会は学校統合問題についてということで、十二日づけでちらしを各戸に配ったか、あるいは持って回ったかということでございますが、この中で「市当局は全面的に承諾できる旨の回答を得ました」ということで何項目か載っておりますけれども、このことについては事実かどうか御確認を願いたいと思うわけであります。

中学校統合に関するもので、交通費は市の財政の都合により打ち切ることなく永久に続けること。本当にこういう約束をしたんですか。

それから、授業終了後部活動に参加しても、必ず午後六時以前の時間帯で帰宅させること。これもそうなのかどうか。

不良化防止の徹底を図ること。これはあたりまえのことですね。しかし、このことは裏を返せば、不良化防止の徹底を図ることでは、不良化防止については学校に責任があるというふうに理解をしているのかどうか。

それから、中学校統合の場合、現中学校職員を二中に配置転用すること。西岬中の教員は全部二中に配置転用する。こういうことで確認をしたのか。こういうことについて御答弁願いたいと思

います。

○議長（林 豊君） 約束の時間がまいりましたので、

（「答弁」と呼ぶ者あり）

以上で、一番議員君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午後零時五分 休 憩

午後一時一分 再 開

○議長（林 豊君） 午後の出席議員数二十一名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一三番議員近藤好雄君御登壇願います。

（一三番議員近藤好雄君登壇）（拍手）

○一三番（近藤好雄君） 初めに、質問に先立ちまして、本定例会開会に当たり、市長は新年度の施政方針の中で冒頭に述べられましたように、市政の根本理念とする豊かな香り高い文化福祉都市づくりへの実現化に向かって着実にその目的達成に成果を上げつつあることに對しまして敬意を表するものでございます。

さて、私はすでに通告申し上げたとおり次の三点について御質問を申し上げます。第一点として館野、九重地区への給水計画の現況について。第二点として社会体育の振興について。第三点コミュニティセンター建設に伴う身障者への配慮、特にトイレの各階設置について御質問申し上げたいと思います。

第一点については、私が昨年三月定例会で通告いたしました、が、上水道の整備につきましては現在未設置地域となっております館野、九重地区への給水対策として、五十三年八月実施いたしました水源調査に基づき水道水源として地脈調査を実施いたしま

したが、その結果、九重の清水地区を水源の有力な候補地として五十四年三月にボーリング調査を実施いたしたわけでございますが、しかしその結果、水量は日量四百トン、水質については特に鉄分が多いため、また色度が水道として適当の水ではないという結論でございましたが、その後も宝貝地内の水脈調査、市営水道の拡張計画で館野、九重地区へ給水するため、環境技術コンサルタントに調査業務を委託し、今月十日から三日間にわたり電気探査を三地点で行い、本年九月二十一日から一週間にわたり宝貝字狭作にある王子不動産の井戸を調べたところ、かなりの水量があったかのように思いますが、調査費百二十万の事業費で環境技術コンサルタントに委託し、電気探査は三カ所で実施することになるが、地下八十メートルから百メートル辺まで調査のようですが、一日三百トンの水量を確保できる井戸を三本掘る計画のようなことでと思いますが、その後の調査の結果をお聞かせ願いたいと思います。

次に、第二点について御質問申し上げます。社会体育の振興について。

昭和三十二年に体育指導委員が初めて設置されましたが、昭和三十六年にスポーツ振興法が制定され、これに基づき体育指導委員制度が法制化されましたことは周知のとおりでございます。現在全国各市町村に約五万一千余人の体育指導委員が設置されております。

この指導委員がそれぞれの地域においてスポーツを通して住民が健康で、豊かな生活をするができるように尽力しておられることは、まことに力強い限りです。

体育指導委員は教育委員会の非常勤職員であるので、教育委員会の指揮命令の系統に入るのであるが、体育指導委員はその市町村のスポーツに関する学識経験者で、しかもこの委員の職務以外に本業を持っており、教育委員会の一一般の職員とは性格を異にしているとともに、住民と密着して地域のスポーツ振興について住民の要求を委員会の施策に反映しやすい立場にあります。

一つ、住民に対してスポーツの実技指導を行うスポーツ振興法の趣旨によって自主的活動をし、育てるように努力しております。千葉県体育指導委員は、スポーツ振興計画の策定にあたって、新しい千葉県をつくるため第一歩を踏み出した。首都圏に位置する本県の産業、経済の目覚ましい発展は物質的豊かさと生活水準の向上をもたらした反面、日常生活の省力化による身体活動の減少などにより県民健康、体力に大きな影響を及ぼしている。平均寿命の伸びと有病率の増加、体格と体力のアンバランス等の現象は、県民の健康に対する関心を高め、自由時間の増大と相まって体育、スポーツをすすんで実践しようとする人々が急激に増加しつつある今日、県民一人一人がスポーツに親しみ、健康、体力づくりを継続的に行えるような諸条件を整備、充実する。

千葉県教育委員会は、スポーツ振興法第四条の規定に基づき、千葉県第二次新総合五カ年計画、昭和五十六年策定を踏まえ、五十六年を初年次とし、六十年度を目標年次とする第五次千葉県体育、スポーツ振興計画を策定した。

館山市は、市民憲章の第一に体力づくりを掲げておりますように、したがって社会体育指導委員は指導者として研修や活動の場も十分確保されて、したがって今後スポーツ、レクリエーション

の指導に必要な科学的基礎知識を身につけるとともに、これからの指導者がそれぞれの特長、技を生かして地域や団体で活動できるように組織化を図り、機能的な指導体制をつくり、市民の体位向上と健康増進を図るため、市の体育、スポーツ団体の育成と組織の強化を図り、市民総スポーツ運動を推進してまいりたいと考えて努力いたしております。

小さな一点として、館山市の体育指導委員を増員できないものか、市長さん並びに教育長にお伺いいたします。

現在、幼児から老人の方々に指導にあたる指導委員は、歩こう大会、なわ飛び大会、市民ゴルフ大会、若潮マラソン、軽スポーツ大会、ママさんバレー大会、ころがししょう大会、青少年のソフト、サッカー、卓球、野球、剣道各大会に協力、立案、指導にあたっており、また最近全国的に高齢者社会になりつつある昨今、若者あるいは家庭婦人に対する各種スポーツ活動の推進、育成に努力してきたのが現状で、高齢者に対するスポーツの普及活動はこれからであるが、近年ゲートボールが全市的に広がっており、この現状です。これらの指導、審判等に協力し、普及活動に努めている次第でございます。体育指導委員の増員に対しまして、お考えをお聞かせ願います。

小さな二点として、宮城五十メートルブル地内の空き地の利用について、宮城百九十二番地の二に施設されている五十メートルブルが整備され、五十三年度より使用されていることは一市民として歓迎をいたしております。そうしてこれに伴います館山市のスポーツ振興の面から非常に喜ばしいことだと思えます。これを契機に施設の充実と運営の合理化に一層の努力をされ

ますことを祈念してやみません。

私は、スポーツの重要性を常に強調いたしておりますが、体指の立場から若干要望しますが、ブルの観覧席ですが、毎年使用前にブルの清掃に草刈り作業をしますが、階段の整備ですが、生コンを流して草の出ないようにできないものか。毎年夏の水泳大会の際、各市町村小中学校の水泳大会に使用する生徒より話を聞かれますので、利用者の立場から利用しやすいように整備をしたらどうかと思いますが、また管理上よいかと思いますが、お聞かせ願います。

また、管理室、宿舍の東側の字沼西原大和田西千四十六番地、宮城寺下百八十番地周辺市有地二万二千七百七平米の山林に子供たちの遊園地、また集会所、アスレチック等の施設等の計画はないものか、お尋ねいたします。

したがって、スポーツは生活の一部となっているわけでございますから、老若男女が集まって一緒に遊んだり、スポーツや運動を楽しむコミュニティでなければならぬのでございます。文化福祉都市である館山市において、私は美しい自然環境の中で自由にスポーツができたらと思うのでございます。

現に、私が昨年十一月二十四日から十二月の六日までヨーロッパ五カ国の体育施設を視察訪問したときに、ドイツスポーツユースセンターの会長も、スポーツなくして人間の幸せはないということを強く指摘しておりました。クリスタルパレススポーツセンター、ピケットロックセンターで子供を保育所に預けてバレーする婦人、グリーンボールを楽しむ老人の姿を見てまいりました。また西ドイツケルンスポーツセンターの実際に身体障害者がバレーボール

を行っており、スポーツクラブ、アスレチック等の施設を視察して非常に感銘を受けました。

当館山のこのプール裏の傾斜面を利用してアスレチックの施設をつくるお考えはないものか、お伺いいたします。

次に第三点について、コミュニケーションセンターに伴う身障者への配慮、特にトイレの各階の設置についてでございますが、一九八一年昭和五十六年は国際障害者年です。国連は一九四八年「すべての人間は生まれながらにして自由であり、人として尊ばれ、諸権利を有し、平等である」ことを全世界に向かって宣言しました。世界人権宣言。そしてそれに基づき精神薄弱者の権利宣言、障害者の権利宣言が発せられ、一九七六年の第三十一回国連総会では一九八一年を国際障害者年とすることを世界の総意として決議しました。そのテーマは完全参加と平等です。

国際障害者年は五つの目的を持っています。一つ、障害を持つ人が社会に適応できるように援助すること。二つ、障害を持つ人に適切な治療や訓練をし、働く機会をつくる。三つ、障害を持つ人が経済、社会や政治活動に参加し、貢献する権利のあることを一般の人に理解させる。四つ、障害を持つ人が公共の建物や交通機関を利用しやすいように調査、研究すること。五つ、障害者の発生を予防し、障害を持つ人のリハビリテーション、社会復帰を進める。

思えば、国際障害者年も残すところ十五、六日でございますが、障害者がいなくなるわけではありません。むしろ多くなっている現状です。日々目まぐるしく移り変わる現在、いつ、どこで、どのような事故が起こるかわかりません。また対策活動の推進と申

しましても、身体障害者の皆さまの実情、ニーズがわからなければ心の通った推進はできませんと思います。

当館山市にも身体障害者千六名、車いすの利用者は四十八人もおります。また何名か車いすを個人で買った方もあります。社会教育委員会の説明によりますと、コミュニケーションセンターに一階のみのトイレの設置と聞かれましたが、複合コミュニケーションセンターを建設するんですから、各階に特にトイレを設置して設計されま

すことをお願い申し上げます。

以上三点、市長さんの所信を承りたいと思います。御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 近藤議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、館野、九重地区への給水計画の問題でございますが、館野、九重地区の水道計画につきましては、その最も基本となる必要水量が確保できるかどうかにかかっているわけでございます。現在、第二次水源調査を実施中で、調査の内容をいたしましては、九重地区の宝具を中心に電気探査による地質調査を行っているわけでございまして、十二月十日から十二日までの三日間調査をいたしましたわけでございます。この結論はまだ出ておりませんが今月中には結果が出るようになっております。その結果がよければ年度内にテストボーリングをしたいというふうに考えております。

次に、大きな第二点、社会体育の振興について、その第一点体育指導委員の増員についてでございますが、御指摘のように体育指導委員の活動については、市主催の各種社会体育行事や、地区

行事に積極的な活動をされているわけでございます。一般的に申しますと、人員の増加に関しては極力避けたいと思っておりますが、この体育指導委員の性格、現在の活動状況から見ましてできるだけ前向きに増員を検討したいと思えます。

第二点、宮城五十メートルプール地内の空き地の利用についてでございますが、館山市営五十メートルプール付近は、昭和二十四年に館山運動公園として決定され、プールが開設されたわけでございますが、昭和五十三年には谷藤原に館山運動公園が決定をいたしましたわけでございます。その決定にあたりまして、プール周辺を地区公園に変更をいたしましたわけでございます。その宮城公園は面積五・六ヘクタールでございますが、急傾斜地が多いため公園開設もしていないのが実情でございますが、将来の問題として当地に適した公園計画を検討いたしたいと考えております。なお、観覧席の御指摘もございましたが、これは教育委員会に検討をしてもらうようにしたいと思います。

大きな第三点、コミュニティセンター建設に伴い身障者への配慮、特にトイレの各階設置についての御質問でございますが、このコミュニティ施設の建設につきましては、現在市として企画構想の段階でございます。施設の検討、施設の配置等マスタープランを検討中でございます。これから専門設計業者に業務委託をいたしまして、設計をお願いするところでございますので、特に身障者対策につきましては十分検討、配慮する考えております。

以上、答弁を終わります。

○二三番（近藤好雄君） 水道でございますけれども、宝貝地区の王子不動産の井戸でございますけれども、その井戸を掘ったところ

の周辺を三カ所といたしましたが、周辺というところ、どの範囲を周辺といいますか、お聞かせ願いたいと思います。あるいは山を越した宝貝のトンネルの手前まで行くのか、稲のところまで行くのか、その点をお聞かせ願います。

○水道課長（庄司利光君） 今回行いました電気探査の関係でございますけれども、宝貝から北に稲という部落があるわけでございますが、その辺と、それから宝貝と水岡にかけてその周辺全部で三カ所を調査したわけでございます。

○二三番（近藤好雄君） 三カ所の設置の場所でございますけれども、井戸を掘る場所の距離はどのぐらいありますか。

それと、九重地区と館野の水道未設置の地域に対しまして、上水道について希望あるいはアンケートを市として実施したか、このことについてお伺いいたします。

市が計画している両地区の一日の水量をどの程度見込んでいるか。また給水人口としてどのぐらいの戸数があるかをお聞かせ願います。

○水道課長（庄司利光君） 井戸を予定する場所につきましては、十二月末に電探の調査の結果が出るわけでございますので、その結果が出ない以上どこにテストボーリングするかということはまだわからないわけでございます。

それと、館野、九重地区についての給水人口あるいは給水量をどの程度に見るかということでございますが、給水人口については水道計画をする場合に、目標年次を一応一般的には十年先を見るわけでございますが、一応五千人を見たいと考えているわけでございます。水量につきましては一日最大二百リットルとおさえ

ますと、日量最大千トンの水が必要になってくるわけでございます。

○一三番（近藤好雄君） 千トンですと三本では足りないわけですが、掘って見なければわかりませんけれども。

それから、よくあの地帯は鉄分が多いんですけれども、鉄分はどのぐらいが飲料水としていけないのですか。その点をお聞かせ願います。

○水道課長（庄司利光君） 井戸を三本というようなことはまだこれからの問題でございまして、電探の結果、テストボーリングを最終的に終わらなければ具体的な数字は出てこないわけでございます。

第二点目の鉄分の関係でございますけれども、水質基準でいきますと○・三PPM以下でなければいけないことになっております。

○一三番（近藤好雄君） 水道のことにつきましてはまだこれからやることで、一日も早く未給水地域に設置できるように切に要望いたします。

次に、体育指導委員のことですけれども、この件につきまして二回通告しましたけれども、われわれボランティアというような形でやっておりますけれども、これからも社会体育につきましましては指導委員として大いに館山市の体力向上に努めたいと思いますので、どうか増員のことをよろしく願います。

それから、体育指導委員の範囲に対しまして、行事運営につきまして予算は全然盛れないのですか、その点をお伺いします。

○教育長（安田豊作君） 体育指導委員の活動予算としては委託料

で組んでおりますが、今後いろいろ話し合いを通じて要望に沿うように努力したいと思っております。以上。

○一三番（近藤好雄君） よその市のことを言っちゃあれですが、館山市は館山市なりのことですが、例を申し上げますと、市原市では体育指導委員が六十名おります。これは人口は二十二万九千六百六十三名ですから、一人当たり大体三千六百九十九人ということになります。これに対しまして市原市では体育指導委員の予算といまして一人当たり経費は年間報酬ですが五万七千二百円費用弁償これは講習会、研修会などに使っております。体育指導委員の予算といまして三十二万を計上してあるわけですが、他市とは比べることはできませんが、そういった状態の市もあるわけでございまして、できれば多少でも運営費をいただきたいと思っております。

○教育長（安田豊作君） 体育指導委員の数については大体よその状態から比べると非常に少ないから、さっき市長から答えたように非常に活動も活発にやっていたにいたっていますので、増員については他市並み、市原並みというんじゃなくて、人口に応じた考え方、今後考えてみたいという考え方をしておりますが、運営費については委託費で仕事に応じた運営費を委託する。こういう考え方を持っております。

○一三番（近藤好雄君） 了解しました。

それから、宮城のプールの用地の空き地でございますけれども、住民から聞いたことですが、たとえば選挙のある場合、あそこのプールを利用してあるような状態だと思えます。あそこ

に階段があるんですけれども、お年寄りの方は階段は上れないと

いうようなことをたまたま聞いておりますが、あの階段を直すなり、新たに集会所とかそういう大ぜい集まる憩いの場所のようなものを設置するお考えはないか。

プールの観覧席の階段でございすけれども、生コンを塗った上に、夏ですからよろい板のようなものを、板を二枚合わせたようなものをつくったら、夏の場合暑くないと思いますが、その点いかがでしょうか。

○教育長（安田豊作君） あそこの周りの全体の計画については、さっき市長から答弁があったように地区公園としての地域でございすので、公園法による一つの建物制限、その他があると思ひます。こういう点は検討しておりますが、とりあえず観覧席の階段に生コンを打ったらどうだ、体育指導委員に毎年草刈りをやっていたいておりますので、痛切にお考えになると思ひますが、ただ生コンを打てばいいということではいけないと思ひます。その点もう少し細かく検討させていただきたいと思ひます。擁壁の強さとか、日が照りますから、照ったときの日照の暑さとかいうようなものが、腰掛ける板をこしらえればそれだけで済む問題ではなくて、草刈りの場合大変ですけども、緑があった方が観覧には適するということも考えられますので、もう少し検討させていただきたいと思ひます。

○一三番（近藤好雄君） いま、教育長さんは草のあった方が緑があつていいとおっしゃいましたけれども、私たちもプールでいろんな仕事をしてまいっておりますが、どうしてもこさがあれば、周辺が荒れているから、あいつた状態で蚊が出るのでありますから、周りを少し整備してくれば蚊があんなに出ないと思ひます。

各学校の大会のときに立たわけてございすますが、さっきも蚊取り線香といひましたが、中に管理している人は使っておりますけれども、外ではそういうことはできませんし、大会でありますからそうした雑草を撤去するにはあそこ生コンを打って、板をやればいいんではないかと思ひます。またその奉仕は私たち体育指導委員で努力をしますから、その点は心配ないと思ひんですが。

○教育長（安田豊作君） ですから、屋外スタンドというもののあり方についてももう少し、それと安全性の問題で検討させていただきます。前向きに検討します。

○一三番（近藤好雄君） 二番目の問題について了解しました。

次に、第三点目の車いすの件でございすけれども、これから設計する段階でありますから、この前、社会体育委員会の中でもほかの委員からも三名なり、四名がぜひそれは実施してもらいたいという要望がありましたから、市長さんに要望いたします。

以上で、終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、一三番議員君の質問を終わります。次、四番議員横溝 功君御登壇願ひます。

（四番議員横溝 功君登壇）（拍手）

○四番（横溝 功君） さきに通告いたしました問題につきまして質疑いたします。

まず最初に、排水路の整備でございすが、去る十一月二日の降雨の際の排水路のはらん状況と今後の対策ですが、念のため私が見てのはらん状況を申し述べますが、神明町の方ですが、北条小学校南側の市道が約二百メートルにわたって随所から流出する水のため、午後三時頃から七時頃までの間、深さ約三十センチ

チ程度の河川に化してしまいました。幸い沿道の家屋の敷地が高いので床下浸水もありませんでした。中央保育園に園児を迎えに来る父兄の苦労は大変なものでありました。また通行人の引き返す者も続出するに至りました。

次に、八幡地区内の排水路は後で聞いたのですが、神明町に劣らないものがあつたようです。

私は、この現実に対し、市から見た現況に対する所感と今後の対策をお聞かせ願いたいと存じます。

二番目ですが、河川の整備について。小さな一、河川の敷について、小さな二、これら河川の護岸整備の現況と今後の施策についてですが、いま北条、館山海岸をながめるとき、波打ち際は海水の濁りがひどく海中、海浜を問わず竹、木の枝、空きかん等のごみを暴露させておる状況です。これらごみ類の多くは河川から流れてくるものと存じます。海をきれいにするには河川をきれいに保つようにしなければならぬと存じます。またちょっとした雨でも幾つかの河川ははんらんし、側溝の水は逆流し、道路にははんらんしております。市はこれらの状況をどう把握しておるかまことに寒心にたえません。

そこで、お尋ねしますが、どのように河川を整備していくのか河川の現況と今後の対策についてお答えください。

三番目、圃場整備による農道の整備について、まず最初に基幹農道の現況と整備計画についてですが、いままでも何度か私はこの問題を提起しておるのですが、特定なものを除きまして遅々として進まない現況から、ここにまたお聞きする次第ですが、農道の多くの現状は穴だらけの連たんであります。これを直すのに一応

は砂利を使用しておりますが、この砂利も七割を農家組合で負担しております。これは農家にとっては大きな負担なのです。

顧みますとき、これら基幹農道ができたことは、農家のやはりある程度の犠牲においてのものでありまして、これがいまや市民の道路として使用され、多くの通行人にとって欠かせない道路となつておるのです。市民の生活道としてありがたいものになつておるのです。それにもかかわらず砂利を七割も負担しなければならぬ現況は、とうてい納得できないものがあります。市はこの現実をどう把握しておるでしょうか。そしてまたこれから整備していくのかを全基幹農道にわたつてお答えください。

次に、小さな第二点でございますが、基幹農道以外のものの現況と整備計画ですが、この農道の多くは幅員は四メートル以上もあり、中には六メートルぐらいの幅員のものもあり、一般通行人にも親しまれ、また通学路ともなっておりますのに、その大部分が基幹農道と同様な現況にあります。

市は、いままでの答弁で、農道であるので農道らしくいいますが、農業経営も近代化し、農道の舗装も必要となつてきております。最寄りのよい例が三芳村ですが、政府の方針による整備により農道という農道はほとんど舗装化されております。これら周辺の状況を踏まえ、以上の二点について市の考えをお聞かせください。

四番目、市道、生活道の整備状況についてですが、整備に重点を置いて質問申し上げます。

小さな第一点、市道の舗装に使用の限界に達しているものがあるが、その解消についてですが、その解消も年々わずかしかな進ん

でおりません。市は前年度の予算を踏襲し、おさなりの程度でやっているから直らないのだと存じます。いまや予算の拡大と技術陣を充実すべきであると存じますが、市の対策をお聞かせください。

二、生活道、里道等もすべて舗装の対象とすべきと思うが、市当局の考えやいかにですが、今回は里道と農道に限ることにしてお聞きます。市はこれらは材料支給でやれという、あるいは四メートル以上にすれば舗装はしてやるといいますが、四メートルに広げるものなら広げますよ。道という道それが生活道として使用されているなら、私は全面舗装するぐらいの政治をやっていたきたい。それが公平なる政治だと私は考えます。でないと、これら沿道の人たちは永久に等しい文化生活を享受できないではありませんか。原則論は原則論として、市長の前向きなるお考えをお聞かせください。

小さな三点目ですが、県道の歩道これはどぶたの上ですが、に高低があり危険であるが、市の考えについてですが、国道、県道も、市道も歩道と言えどどぶたの上というところが多いのですが、これはハイヒールをはいている女性にはなかなか歩けません。この現状を念のため、参考に申し上げます。

さて、神明町の沿道の半分は車道が歩道より四、五寸高くなっております。幼稚園、保育園等の父兄は自転車等で送り迎えをしているのですが、車道が狭いため、ダンブ等の大型車が来ると歩道に入ることになるのですが、四、五寸低いためまことに危険なものがございます。それに沿道に面した何人かの家庭の前は道路が高いため、やむを得ずどぶたを上げ、あるいはどぶたを舗

装したりして便利を図っておるのですが、これはやむを得ないと言えば言えるでしょう。その他何の理由かわからないのですが、どぶたの高低が目立ちます。いずれにしましてもお話にならない状態です。

私は、どぶたの高低を直さないと危険である、当座はこのことを強調いたしますが、車道を歩道と同一の高さにしてもらいたいわけですね。そこで、これは県道なんですから、市長は県の方に強く道路が安全になるよう要望してもらいたいものです。なおまだほかにもこういうところがあるかと存じますので、調査の上、これまたあるとすれば要望をお願いするものでございます。

五番目ですが、都市計画道路について。小さな一、すでに承認されている街路の遂行計画についてですが、このことにつきましては昭和四十三年建設大臣により決定されたものですが、私は去る三月にも本問題を取り上げたのですが、あまり推進を見ておらないように思います。市はいかようなお考えがあるのかを再度お聞かせください。

小さな二点でございますが、新たに都市街路を考える必要があると思うが、市の考えについてですが、現行の都市計画法第二条第四条に土地の合理的利用、土地に関する計画ということが漢とらわれておりますが、地区計画、同詳細計画等が西欧にはうたわれておるのだそうですが、わが国にはないため道路網の整備に欠けてしまったと言われております。

せっかく、当市には都市開発課も、都市計画課もできたのですから、新たにrippな計画をつくってもらいたいものです。私は平久里川沿いに那古から亀ヶ原までの道路をつくったかどうかと

思うし、上野原の変電所東側を通っている農道を亀ヶ原まで延ばしたりしたらと思うし、上野原地先から大戸の方に道を一本通したらとも考えます。当局も将来の道路計画、交通対策の見地からとくと一考を願いたいと思いますので、この所見をお聞かせください。

六番目、市政の効率化についてですが、小さな第一点、市職員の一層の成績の向上についていかんしてきたか。また今後の方針についてですが、市民は市職員の資質の向上を熱望しております。いやしくも市が進達した書類が上級官庁から返還されるようなことがないよう、市長は職員の向上に一層の注意を注ぐようお願いいたします。所信をお伺いします。

小さな二点ですが、県職員の派遣要請は今後とも続けていくのか、お考えについてですが、県職員の派遣のメリットがあったかどうかのお考えをお聞かせください。そして今後の方針についてお聞かせください。

三番目ですが、建設部門の充実が急務だと思うのですが、館山市将来の都市形態のあり方を現状を見て思うとき、いまが将来像をつくるのに必要なときだと思います。そしてりっぱな計画を樹立していただきたいと思うものです。また水路等の雨水のはんらん等の解消もできておりませんので、かかる観点に立脚して考えますときに、将来像を手がける技術陣の必要を痛感するものです。ひとつ名実ともになりっぱな技術部門に仕上げてもらいたいと存じます。市長の御見解をお伺いいたします。

七番目、管理職員の給料の行革に与える影響についてですが、新聞報道によりますと、国は管理職員の給料を一カ年凍結すると

いつています。市はどのようにいたしますのか、市長の御見解をお聞かせ願いたいと存じます。

以上、通告による質問を一応終わらせていただきますが、また市長の答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 横溝議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一点、排水路の整備についてでございますが、市内の排水路整備は五十六年度においても八幡都市下水路ほか八水路の改修整備をしているところでございますが、これらの事業を実施するためには多額の費用を要しますので、でき得る限り公共事業にかけるよう、また緊急度の高い事業から順次整備をいたしたいと考えております。

大きな第二点、河川の整備についてでございますが、河川の数は二級河川五、準用河川二、普通河川二十五、合計三十二でございます。

これらの河川の護岸整備の現況と今後の施策についてでございますが、二級河川は県、準用河川は市で管理し、河川法の適用を受けない普通河川の整備については、財産管理は知事が国から管理委任を受けており、機能管理は生活環境の維持改善のため市がそれぞれの状況に応じて対処をいたしております。

本年度は、準用河川であるどん川について国道のかけかえに応じ整備するとともに、災害により護岸の決壊が生じた長田川、岡田川、小原川、金丸川、巴川、笠沼川、作名川の十カ所の整備を国、県の補助により整備いたしております。なお今後とも国、県の補助により漸次整備いたす考えでございます。

大きな第三点、圃場整備による農道の整備についてでございますが、まず第一点の基幹農道の現状と整備計画についてでございますが、圃場整備による基幹農道の現状については、館野地区の稲から三芳村の池の内に通じる農道は県営圃場整備事業として舗装されておりありますが、その他は未舗装になっております。圃場整備地域の農道整備は原則として県営圃場整備事業で対処すべきものと考えます。

今後の整備計画については、市道三号線から関東デッカ航路標識事務所宿舍の付近まで約四百メートルが昭和五十七年度に舗装される計画でございます。昭和五十八年度以降については国庫補助等の関係から計画が明確にされておりません。

これは、従来は市単独の原材料交付及び小規模土地改良事業で整備をしてきたところでございます。今後幹線については将来市道になるような路線について整備するように努めるつもりでございます。

小さな第二点の基幹農道以外のものの現状と整備計画でございますが、基幹農道以外の農道の現状は未舗装でございます。今後の整備計画については、生活関連のある農道と農耕を主とする農道との利用状況等を考慮して対処いたしたいと思っております。

これは、従来は市単の原材料交付及び小規模土地改良事業で整備を図ったところでございますが、今後生活関連のある農道で将来市道になるような路線については整備に努めたいと思っております。農耕を主とする農道については現行の原材料の交付及び小規模土地改良事業で整備をいたしたいと思っております。

大きな第四点、市道、生活道の整備状況についてでございます

が、小さな第一点の御質問でございますが、この件に関しては六月定例会において通告をいただき答弁をいたしたとおりでございますが、舗装道路の中にはすでに十数年を経過して老朽化したり、交通量の増大により路面が傷んでおるものもございますので、年次計画により逐次補修いたす考えでございます。

なお、御参考までに昭和五十六年度の補修箇所を申し上げますと、市道二四三号線ほか五路線でございます。総延長は八百四十メートルでございます。

第二点、生活道、里道等もすべて舗装の対象にすべきだと思いが、市当局の考えはどうかという御質問でございますが、昭和五十六年四月現在市道の舗装率は五二・六％でございます。未舗装市道は百九十九キロメートルございます。このような現況におきましては市道舗装を優先すべきでございますが、生活道等についても地域の状況、地域住民の協力により舗装化を図っておりますし、今後もしそういう方針であります。

小さな第三点、県道の歩道のどぶふたの高低があり危険だという御質問でございますが、御指摘のように県道に付随する歩道についても県の管理に属するものでございますので、具体的に場所等を御指示くだされば、県館山土木等に改善方依頼いたしますので、担当課にお申し出をいたしたいと存じます。

大きな第五点、都市計画街路についてでございますが、第一点はすでに承認されている街路の推進計画についての御質問でございますが、館山市の都市計画道路は現在十一路線あります。このうち国道一二七号館山バイパスを最優先にいたしまして、また南北に走る幹線を東西に結ぶ路線として八幡高井線の実現を図りた

いと思っております。

また、駅周辺の再開発にあわせ、この地域内の都市計画道路の整備と広域的な立場から一七号バイパスの起点から県道館山白浜線を結ぶ路線も県への働きかけをいたしまして、その推進を考えているわけでございます。

第二点は、新たに都市街路を考える必要があると思うがどうかという御質問でございますが、都市計画街路は一般的には人口密集地区内の道路整備をするための制度でございます。市としては現在都市計画決定されている道路をまず整備すべきであり、現時点では新たに路線を追加するという考えはございません。

最後に、大きな質問の第六点目、市政の効率化についてでございますが、小さな第一点、市職員の成績向上ということでございますが、当市におきましては従来から減量経営に力を入れますとともに、少数精鋭主義に徹した行政を推し進めてまいりました。そしてこれらを実現し、複雑多岐な社会情勢に的確に対応していくために職員研修を積極的に進め、職員の資質の向上と能力の充実を図ってきておるわけでございます。今後もさらに職員研修を充実いたしまして、職員の資質の向上を図っていく考えでございます。

小さな第二点、県職員の派遣要請は今後も続けていくかどうかという御質問でございますが、県職員の派遣要請は今後も引き続き行っていく考えでございます。このことは、県市相互間の行政運営を円滑にするともに、また職員の専門的知識を生かして業務の効率化、適正化を図るため要請しているものでございます。現段階においてはその実効が上っているものと考えます。

第三点、建設部門の充実が急務だと思いがどうかという御質問でございますが、建設部門の充実については五十五年度に都市開発室、五十六年度には都市計画課というように行政需要の増大に対応して充実を図っており、また土木技術職員も逐次増員を図っております。

今後は、定数削減が叫ばれている厳しい社会環境でございますので、事務事業の見直しを行いながら、職員の適正配置を考えるとともに、専門的な測量、設計等の外部委託を含め、今後の行政需要にも対応していきたいと考えております。

質問の大きな第七点、管理職員の給与の行革が及ぼす影響についての御質問でございますが、今回の館山市給与改定におきましては、管理職員も一般職と同様に取り扱い予定でございますので、御指摘の影響はございません。

以上、答弁を終わります。

○四番（横溝 功君）　まず第一点でございますが、はんらん状況をここにうたっているのですが、市長さんの方から答弁がなかったわけで、私が述べましたが、市当局はどのようにこの現況をとらえたか、まず一点お伺いいたします。

○経済部長（山田俊康君）　はんらん状況、当日の降雨量は時間当たりいたしました二十五ミリ程度でございます。翌日十一月三日が十四ミリ程度でございます。なお、現場等につきましては横溝議員ともども建設課長も一緒に見ております。

中央保育園から境川までの水路の関係でございますけれども、原因、隘路と申しましょうか、それは全体の流出量に対して側溝と申しますか、下水路と申しますか、その断面不足というの

が一つ考えられる。それから検察庁館山支部の前で水路がクランク状に屈曲しております。こんなことも一つの隘路になるうかと思ひます。それから当然高低差が少ないために境川の方から高低を強く持つてくるのが困難である。もう一つは、この水路を拡幅するにあつて民有地もありますし、学校、官庁の中に水路がありますので、それらの問題等も含めて全体的に市長がお答えいたしましたように順次整備してまいりたいと、このように考えております。

三軒町の排水路につきましては、やはり国鉄線路沿いに南北に走ります水路については勾配が全然といつていいぐらいないわけでございます。線路を渡りまして下流までの勾配これが百五十メートルほどの間につきましては千分の一から千分の二と非常に少ないわけです。その上にやはりクランク状のものが一カ所ございます。そんなようなことからいろいろ隘路になっておりますが、ともかくなるべく緊急度の高いものからということで順次整備を進めてまいりたいと考えております。

○四番（横溝 功君） 本水路については緊急度が低いと見ますか高いと見ますか、お伺いいたします。

○経済部長（山田俊康君） 早急にやるべく努力はしております。ただ現実の問題といたしましては災害復旧等の国庫補助等の対象になるかどうかということ等も含めて現在検討している次第でございます。

○四番（横溝 功君） 緊急度が高いと言わざるを得ない。道が二百メートルぐらいにわたって三十センチの深さで川になっちゃりということこれはお話にならないと思ひます。ですから緊

急度は高いと思ひますが、いま部長さんがおっしゃるように国庫補助を仰いでというようなこともありますので、早急に国庫補助を仰いで直さないと、この間降つたのはたつた二十五ミリですよ。三十ミリ以上は豪雨、いいですか、四十七年に一時間七十五ミリ降つてゐる。二番目が四十四年に七十四ミリ一時間に降つてゐる。四十八年には七十三ミリ一時間に、三十五年に六十ミリ、四十五年に四十六ミリ降つてゐる。たつた二十五ミリじゃないですか、それでもまあいふふうになつたといふことですよ。これはこの理由は部長さんがいま言つた理由だけではないですよ。南高はいま相当埋めてゐるんですよ。法性寺の裏も相当埋めてゐますよ。テニスコートは埋まつちやつたけれども、法性寺の裏を全部埋めてゐますよ。そういう土砂が埋もつちやつてゐるんですよ。きょうまた二十ミリ降つたらまたはんらんしますよ。取れといつても取つてないじゃないですか。こういう市のことはいけないですね。また雨が降らないとも限らない。またこういう事態が起こる。あの川は埋まつてゐますよ。周りも全部というぐらい埋めましたからね。その土砂等が川に流れて落ちてゐて、やつてみたですけれども、一尺ぐらいはそういうどろなんですよ。これは早急にとらなないと、これはもう話にならないですよ。南高はいままでは国道の方に水を流していたけれども、どんどんこっちの水路に流れてゐるわけですよ。だから、さっき断面が狭いと言つたけれども、その上、いままでは市長さんの方に流れてゐた、それが国道の方に流れる水と、いま私が言つてゐる排水路に流れる両方になつてゐるから、だから流れないんです。

もう一つ、部長が落してゐるのは北条小学校の南側の側溝が狭

いんですよ。だってそうでしょう。市民センターの敷地、北条小学校敷地全部あそこ埋まったわけですよ。それが北条小学校の南のたった一尺ぐらいの側溝に流れてくる。はけきれないですよ。それがどんどんなはけきれないで水路に行く前に道に出ちゃうわけです。いいですか、完全でないと思いますよ。道路の中央保育園寄りだってそうですよ。もう少し大きくしないとやっぱり対応できないですよ。あそこは不動産屋の方がりっぱに埋めてりっぱな敷地になったわけですよ。いままで田んぼだったのがりっぱな敷地になってしまった。溝が小さいんですよ。いまでは田んぼで受けていたけれども、水路に入る前に側溝でやりきれないわけなんです。出ちゃうわけです道路に。そういうこともありますので、そういうことを言ってもしょうがありませんけれども、そういうことでさらに言うならば、市長さんの、すぐあと五寸で市長さん上っちゃったんですよ。

ですから、水路問題については、この間コミュニティセンターにかかわる委託調査の結果が出ていますけれども、あれ再検討しないとどうかという、素人ながら考えるわけで、もともと断面を大きくしないと、コミュニティセンターの向こうの南側だけのあそこを底打ちしても、それだけではどうにもしようがないような気がいたします。これは本題から少しされますので、いざれにしましても、それとこういうのはやっぱり、これぐらいにしましょう。

それから、二点目の河川の整備についてですが、市は災害があればそれはやるでしょうよ。それは結構ですよ。しかし館山市が本当に明るい、いい社会環境、住みよい都市になるには川も、単

独事業というわけにはいかないでしょうけれども、公共事業で護岸をなすわけやってもいいですよ。

さっき、私が言ったように、川から竹なんか流れてくるわけですよ。竹やぶで大体護岸を持たせてあるわけなんですけれども、それが流れてくるわけですよ。それが海にきて、かん空もあるしね。そういう川の環境が悪いから必然的にごみも捨てるという、あるいは捨てないとも限らないと思いますよ。これを護岸をよくして緑の木でも植えてごらん下さいよ。そして遊歩道でもつくれるぐらいの考えを持っていたきたいんです。県はそこに行くといずれにしても平久里川にしても、汐入川にしても、境川にしても、ほとんど直していますしね。ですから、市も市が直すぐらいの、それではないと海がいつまでたっても汚いと思うんですよ。上下水道そういうものも必要だと思いますけれども、やはり川が汚いから海も汚い。こういうことで夏季観光にも循環的にも影響があるというようなことだと思っております。ですから、ひとつ聞きますよう。だんだんと整備を計画的に、年次的にやっていくか、一点聞いてみましょう。お願いします。

○経済部長（山田俊康君） 先ほど、市長から答弁申し上げましたように、本年度も十カ所の整備をしております。今後とも、県の補助等も強力に要請いたしまして、順次整備を図っていく所存でございます。

○四番（横溝 功君） 次に、圃場整備ですけれどもね。市長の答弁でわかってきましたけれども、基幹路線で、いま一つ例に言えば、変電所から先東六メートルか七メートルあるんじゃないですか、砂利ひとつ入ってないですね。非常に乾くと相当車が走った

りやってるんですよ。これは将来市道になり得る、本当にこれを延ばして、さっきも言ったわけですけれども、これを延ばして亀ヶ原の方にと、せっかく農道もあるわけですから、農道といっては農家の人に怒られるかもしれないけれども、本当に自動車がいま飯塚薬局の方によってくるわけですけれども、こういう道が整備されれば、そのところではけるような気がするわけですけれども、今後この路線等についても生活道として見て、砂利等は市で無償で敷いてくれるんですか。

○経済部長（山田俊康君） 先ほど、市長からお答えいたしましたように、今後幹線については、特に市道に将来なり得るような路線についての整備を図っていくんだということでお答え申し上げます、またとおりでございます。市長から答弁しておりますように、幹線道路特に県管圃場整備でやっていただく。

現在、やっておりません理由をちょっと申し上げますと、圃場の中の暗渠排水等が完全に終わっていない。あるいは水利施設の配管等も完全に終わっていない中で整備を進めるということは、後でその道路を掘り返すということにもなりかねないので、重複投資はできないんだということから現在整備が遅れている。

なお、市長から説明いたしましたように、五十八年度以降については国庫補助等の関係から計画が明確にされていないということとで説明いたしましたけれども、国庫補助等の関係で補助金が決まりました、先ほどちょっと触れましたように、道路を先に農家の方がやるのではなくて、圃場の中の暗渠あるいは給水、排水の施設、設備をやった後に道路舗装ということになってまいりますため、道路の方が明確にされていないという状況でございます。

その他の道路については冒頭に私から申し上げましたように、市長の答えたとおり、市道になるような路線については整備していくということでございます。

○四番（横溝 功君） いま、部長の答弁でわかりましたけれども、ただ遅れた遅れたでなくて、なぜ遅れているのか、こういう点をひとつよく相談して早くやるようにしないばこれはいけないと思うんですよ。ただそういうのがやってないやあってないで、あるいは農家組合がやるのかもわかりませんが、なるだけ補助金早く出るようにして、そういうのが早く施設ができると、それでないとやっぱり農地としての用がなさないならば、ある程度の指導はしてもらいたいものだと思いますよ。

次に、四番目ですが、五十六年度八百四十メートルやったというよりなことでございますが、とにかく館山市の土木費はいつても言うんですけれども、一〇％切ってるんですよ。県下最低だ。ですから、さっき私が言ったようにもうちょっと。これだけうんとふやせということは言いませんけれども、たとえばお諏訪さまのところを見てごらん下さいよ。六軒町あそこの四、五十メートルあるでしょうけれども、二十回でも、三十回でも往復すれば胃下垂になってしまいますよ。よく穴ぼこを埋めたものだと思いますけれども、ああいうのが、計画でやるでしょうけれども、風が悪いですよ。六軒町のああいうかなり人通りの多いところがあるいうふうなていたら、道路では私はいけないと思います。私はやるべきはもっと予算をふやして重点的にやったらいいでしょう。私はこの四点についてはそういうことを要望します。

それから、小さな三点の神明町の市長の答弁、担当課にという

けれども、担当課は調べたんですかね。担当課が答弁にあたってはなるほどなど、見るぐらいの熱意で答弁してくれなければ困ると思うんですよ。ただ言ってくれ言ってくれで、そういうことでは私は納得いかないですね。もうちょっと担当課は歩いて見て、あるいは自転車に乗って見て本当かどうか確かめてみて、なるほどと、そういう努力をしなければ私はいけないと思うんですね。市長さんどうですか、お考えは。

○市長（半澤良一君） 私は、横溝議員の御質問は一般論として受け取って、ただその一例として神明町の道路のことを言われたのだと思ひまして、神明町の道路のことに關してはわかっておりましてけれども、その他にもあるんだという御質問のように伺いましたので、申し出てもらいたいと申し上げたわけでございます。

○四番（横溝 功君） 都市計画街路も新しい路線は考えていないというようなことでございましたが、考えてないと言えればそれでしようがないじゃないですか、考える必要があると思うんですよ。ですから、コミュニティセンターの中を県がやってくれる、結構ですよ。強く早く要望してくださいよ。調査費がついたのを知ってますよ。けれども、高井八幡線だってそうですよ。県が調査費つけてやって結局市でやるように、今度は市でやらないように市長や助役の政治力で、そういうコミュニティセンターの中を、敷地を通る大きいあれがないと市も大変ですよこの額は。だから熱意ですよ。こうなるとひとつ市長の政治手腕をお願いする次第でございます。

次に、市行政の効率化についてでございますが、一、二点了解いたします。

小さい三点ですが、本当に大事ですから、さっき言った排水路も、市長のところ高低差がないというけれども、高低差は低くが見たらあると思うんです。市長のところから境川は高低差はないけれども、保育園のところから国道のところまでは高低差があると思ひます。これは私が思うわけで、高低がないんでなくて、ひとつ排水路を見直すぐらいの技術陣を充実してもらいたいと思うんですよ。それでないといくらたってもいい道路もできないし、排水路もできない。これは指摘にとどめておきます。

次に、第七点目は、市長の答弁で了解します。

以上で、終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、四番議員君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後二時三十分 休憩

午後二時五十四分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一八番議員流山源次郎君御登壇願います。

（一八番議員流山源次郎君登壇）（拍手）

○一八番（流山源次郎君） 私は、次の三点について御質問を申し上げます。

第一点は館山市の水産行政について。第二点は大型店進出について。第三点は受益者負担の軽減についてであります。

まず、第一点の館山市の水産行政についてでございますが、質問に先立ちまして一言お断りしておきます。これはいつも私が水産行政を通告質問すると、自分の利益のためにやっておるというような批判もございますが、現在私は水産から一銭の利益も受け

ていないわけでございますので、この点につきまして了解していただきしたいと思います。それからさらに何か特定の人に対してこれを反論するとか、そういうことでなくして、市との質疑応答の中において現在置かれているところの漁業の実態を皆さん方に少しでも知っていただきたいということでございますので、よろしくお願いいたします。

とにかく、京葉工業地帯が造成されてから、館山を基地とするところの漁業というものは漁場を非常に減少されたわけでございます。一概に海は農家と違って田んぼとか、そういう個人的なそういうものではないということで消されてしまうんですが、漁民としてはやはり自分の耕す田がほとんど五分の一以上の漁場がなくなってしまったということには非常に残念なことでございますが、これも政治のしからしめるところであって、これからの世の中の移り変わりでいつまでもまんべんとしていられないわけでありまして、今後房総南部におきましますところの館山湾三十一・五キロの海岸線の中にそれぞれの許可漁業があつて水産業が営まれているわけでございます。

この点につきまして、小さな項目に分けて御質疑申し上げます。館山湾内に現存する商港、漁港の二つの基因についてお尋ねいたします。館山湾として非常に不思議なことは商港と漁港がありながら、商港の中に漁港のような存在価値があるということでございます。この点についての説明をお願いする次第でございます。

第二点としては、館山湾沿岸における海面許可漁業共同権についてお尋ねいたします。現在許可漁業権は幾つぐらいあるか、お

尋ねいたします。

三点といたしまして、年々少なくなる一次産業特に漁業におけるところの専従者の現況と未来についてを市はどのように受けとめておりますか、お伺いいたします。

第四点といたしまして、漁業公害とその対策について市においてはどのような計画が考えられているか、お聞かせを願います。

市の漁業行政の中で、各漁協へのアンケートの結果、下水道の完備が指摘され、それに対して市としてもこれからの水産行政の計画書の中に、その下水道の完備が徐々にではございますが、これをつくっていくということで計画書にうたわれているわけでございますが、その見通しはどうか。

第五点といたしまして、湾内漁業育成のため、戦後海底整備の歴史と漁業損害についてどう見てきたか。例の大東亜戦争が終了いたしましたから、戦後館山湾を中心とする特にあぐり漁船におきましては、操業するたびに撃墜された飛行機の残骸等によりまして、せっかく魚をとりながら魚網を切られてしまつて漁獲もなると、現在非常にあぐりの倒産が多いのでございますが、その一端は、当時から資本として蓄積されておるべきものが、こういう海底の非常に危険なるものによつて網の補修、網の補給というべきものに当然蓄積さるべき資本が費やされてしまつたと、そのために現在におきましては余裕がなく、また人員等の減少によりまして倒産だと私は見ておりますが、この点につきましてのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、大型店舗の進出についてでございますが、大型店の全国まれにみる大量進出には、一館山市の問題だと済まされないこと

でございます。それが何よりの証拠にはテレビ等におきまして日本全国に大々的に報道されましたのは、あの館山地域にこれほど大量の大型店が進出してきているということは問題として取り上げたいのを見てもおわかりだと思えます。

この点につきまして、市は商調協等に何もかもまかしてあるからということであるようですが、ある市においては二年間の凍結を出したり、また国としてもただ市長の意見書というべきものではちょっと力が足りないということで、制限をする法律をつくらうという話も出ておるといふ現実においては、何かわれわれちょっとはたから見ておって、市のやり方があまりにも無責任過ぎないかと思ひ点でございますが、この点につきましてどのようにお考えでございますか。

二点の全店が許可された場合に既存商店との共存共栄は果たして図られるかどうか。

三点に、果たして現在より物価が安くなるか。これは消費者のほとんどの方が大型店が出て来れば安いものかといつても買えるという考えを持っているのが多数だと思ひます。この点につきましては、市としては果たして大型店大量進出の場合には物価は本当に安くなるかどうか、この点をお聞かせ願ひたいと思ひます。

三に、市民への負担をあまりにも押しつけてはいないか。地域において環境づくりに市に予算を申し込めば、そこには必然的に地元負担が生じてくる。いわゆる受益者負担の原理でございますが、しかしある一定の限度なら市民も黙って市に協力し、耐えて行けるけれども、私今度水産問題に對しまして調査をした結果、標準家庭の十一万にがしの線が出ておりますが四人家族で、こ

れに對して漁業者の中の六割以上はこの十一万の線あるいはそれより下だといふ現実が統計になつてあらわれているのを見たわけでございます。

ところが、その漁業者は民生保護を受けるわけでもないし、とにかく自分で生きられるだけ生きようということで歯をくいしばつて働いておるわけでございますが、たとえば消防車一台を購入するといふ場合に地元負担で三百万、四百万といふ莫大なるものが義務づけられておるといふことになりますと、民生保護の人は地元の町内会長さんまたは区長さん除外しますが、とにかく働いておるといふ人は一応割り当てとして半強制的なものが課されるわけでございますが、この線を考えて場合に、本来この低所得者がどうして耐えていくかということが非常に心配になつてくるわけでございますが、市においては当然予算化すべきでございますが、受益者負担の軽減をもつと真剣に考へて、ある程度市において予算を盛つていただきたいといふことをお願いする次第でございます。

以上で、終わります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点、館山市の水産行政についての御質問でございますが、以下五つの点についてお答えをいたします。

まず第一点は、船形漁港は昭和二十六年七月十日第三種漁港として指定を受け、館山港は地方港湾として昭和二十八年三月二十五日指定され、その後昭和四十年六月七日館山都市計画館山港臨港地区の指定を受け、商港区と漁港区に分区されて現在に至つて

おります。

小さな第二点でございますが、館山市の沿岸海域には共同漁業権、定置漁業権及び区画漁業権の二十五件の漁業権が設定されております。

第三点でございますが、漁業専従者の現況は漁家人口に対し二三・三八％で、高齢化が進んでおります。今後の対策につきましては漁協の青年部あるいは婦人部等と通じ、あるいはこれらの方々と十分話し合いをいたしまして後継者の育成に努めてまいりたいと思っております。

第四点でございますが、漁業公害とその対策につきましては、海の汚染の原因は生活排水、工場排水及び汚染物質の不法投棄等いろいろございますが、この対策として洗剤の適正使用と、し尿浄化槽に対する指導強化を図り、あわせて不法投棄の防止に努めてまいりたいと考えます。

第五点、館山湾内には各種漁業が営まれており、戦後海底障害物等で漁業被害を受けましたが、その都度原因者との話し合いにより解決されていきます。今後これらの問題が生じた場合、市いたしましたとしてもその解決に努力をいたしたいと思っております。

大きな第二点、大型店進出問題についてでございますが、第一点は、大量進出についての市の考えでございますが、現状における出店計画はあまりにも異常な計画であると受けとめております。大型店の出店につきましては、館山市周辺も含めた商圏の中で、商業者の実態、消費者ニーズ、購買力等を分析し、これに適応した商業集積が最も望ましいと考えております。

第二点は、大型店の出店規模にもよりまますけれども、特色のある

個店は別として、大型店の出店により既存商店は影響を受けることは避けられないと考えます。問題は、その度合いでございますが、現在審議中の商業活動調整協議会は、既存商店との共存を図ることも調整機能のうちの大きな一つでございますので、慎重な審議を期待いたしているところでございます。

第三点につきましては、大型店の取り扱い商品の品目、内容にもよりまます。現在よりそう大きな物価の変動はないものと考えます。過去におきましては大型店即安売りであるとのイメージを与えた時期も見受けられましたが、消費者の買い物志向は社会情勢の動向等とともに、単に安いだけでは魅力がなくなり、変化してきているように思われます。

消費者に対する調査によりますと、消費者が大型店に期待するのは買い物の利便さが第一でございます。品物の数が多い、豊富であるということが第一でございますが、第二番目に一つの場所で一度に買い物ができる。そういうことが二番目でございます。価額が安いということは第三番目になっているわけでございます。そういう意味で、必ずしも大型店ができることによって物価が下がるということとは、安くなるということはないと思っております。

大きな第三点、受益者負担の軽減についてでございますが、市道舗装工事や消防施設整備等の寄付金の受け入れにつきましてはそれぞれ施設の必要性、緊急性を勘案しながら事業を実施していく中で、地元住民の任意寄付として受け入れてきたところでございますが、今後はそれぞれの実情を勘案しながら、また従来からの地元寄付の経緯を考慮しながら、年次通減の方向で対処したいと思っております。なお、御質問の中にございました消防車の購

入につきましては、これは全額市費で行っております、地元の負担はございません。

以上、答弁を終わります。

○一八番（流山源次郎君） いま、市長の答弁の中で、館山沿岸における海面許可漁業権の数はどれくらいのことのあれが落ちたと思いますが、私の聞き違いでしょうか。それをお伺いしたいと思います。

それから、共同海面の利用についてでございますが、法的に共同海面の漁業権というのはどこまで守られておるのかどうか、それを簡単に御説明していただきたいと思います。

それから、現在の漁業人口がだんだん高齢化されて少なくなっているということは、いま市長の答弁でも了解したわけでございますが、現在の漁業の就業者または漁業作業におけるところの労働者の内容、また海を利用しておる方たちのどういう方たちが漁業を中心に働いておるか、その点もお聞かせ願いたいと思います。

次に、いま市長からもお話のあったとおり、下水道の完備がされないために、そこに家庭の雑排水の中に洗剤等のもが海に流れてくるということを聞いておりますが、これに対して現在終末処理場をつくれといっても、これは早急には非常に不可能なことでございますが、何か簡単にある程度のもを、直接海に流さずにそれを少しでも緩和する方法は考えられないかどうか。先ほど来河川の問題が出ましたが、河川等におきましては滅菌作用等によりまして直接海に流れるものに対してはそういう処置が施されておりますが、特に下水、大きなどぶ川とかそういういたものに対

してはほとんど手がつけない現状だと思っておりますが、その点につきましてどのようにお考えになっておりますか。

それから最後に、市長さんが答えられなければ無理に聞くわけではございませんが、非公式にわれわれキャッチした話でございますが、海上自衛隊の方から水上機を設定したいという話が市長さんの方に事実あったかどうか、この点についてお聞かせいただきたいと存じます。

○経済部長（山田俊康君） お答えいたします。

漁業権の関係ですが、漁業権は件数で二十五件ございます。

それから、漁業に従事している人ということですけれども、昨年の九月の漁業統計調査によりますと、館山市の漁民総数千八百九十四人、そのうち純漁業者は四百四十三人、第一種兼業といいますが、漁業を主としておりますとして従として漁業以外の収入を得ている人たちが四百五十八人、第二種兼業がただいま申し上げました逆になります。その方が七百二十一人、その他のものというのが二百七十二名、合計で千八百九十四人でございます。

河川の波菌、どぶ川等の処理ということでございますけれども、これは市の広報等でもお願いしておりますように、どうしても市民の絶大なる協力なくしてはできない問題であるというふうに考えております。市民の協力を得て遂行していきたい。

それから、公有海面の利用の関係ですけれども、各漁協におきまして漁業権行使規則というのが国で準則を示しております、それに基づいてそれぞれ規則が制定されております。この規則に基づいて管理運営されるということでございます。

○市長（半澤良一君） 海上自衛隊の水上機の駐留と申しますか、

常駐と申しますか、それについての申し入れはございません。またその話は聞いておりません。

○一八番（流山源次郎君） 海面許可漁業の件につきまして部長さんの方から詳しいお話がございましたが、私はこれを取り上げましたのは、戦前に巨大なる勢力を誇った海軍でさえ館山湾の漁業の海底の層を荒らすということはいかぬというもとに、投錨する場所が洲の崎から沖の島、また洲の崎灯台から一直線に線を引いたその以西に投錨するという厳しい規則もあったわけでございます。これは漁業家の立場を考えたものでございますが、戦後におきましても海上自衛隊の方からわれわれはいろいろ行動の関係で連絡等を受けるためにひとつ館山湾に投錨させてもらいたいという申し入れがあつて、その時点において漁業協同組合と話し合いをして確かに線引きをしたわけでございます。ところが現在は一応その話し合いの過程でございまして、その線がくずれたかまたいま漁協の方としてはどの海域に投錨だけはしてくれなという申し入れがあるかどうか、その点についてお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 現在、自衛艦の停泊等につきましては漁業被害を防止するためにそれぞれの漁業協同組合等が自衛隊に對しまして漁場図を示して協力を求めているのが実情でござい

す。

○一八番（流山源次郎君） 戦前海軍それが現在の自衛隊、それがなぜ館山湾である程度区域の規制をしてもらわなければ困るかということは、沖の島から東にかけての海面は非常に浅い海面でございまして、艦船がまゐりまして投錨いたします。投錨というの

は素人考えですごいかりをおろせばということではなくて、艦船等は投錨すれば百メートルぐらい先からずーっといかりのチェーンを突っ張って、それで初めて船が動かないというのが現状でござい

ますが、それが出動するときに巻き上げていきますと、浅い館山の海面は粘土、やわらかい土が表面を覆っておりまして、それが小山のようにいかりを上げるときに盛り上ってしまふわけです。それで魚が見えたということであぐり船なんか網を投網いたしますと、魚も入るが盛り上った山のような土も抱え込んでしまふわけで、網は上らなくなってしまう。せっかく漁民が魚をとろうとしても網が上らないからしやうがなくて網を切って海底の粘土とか、どろを海に捨てて、そうして急いで網の修理をして魚を追うわけでございますが、魚はいつまでも待ってないわけでございます。戦後自衛隊とは話し合いになつておりますが、一般の商船等が停泊等、避難するためにごく難に投錨しますと、その後は魚が見えても漁民としてはお手あげの状態なんです。そういう状態を知ってもらふために私はこの質問をしたわけでございます。

それから、先ほど経済部長は、窒素、磷等につきましてはちよつと畑違いだと思ひますが、民生部長さん、現在館山湾の窒素、磷等汚染されている密度はどういうものか、おわかりになったら、わかる範囲で結構ですが、お願いいたします。

○民生部長（鈴木 力君） ただいま資料を取り寄せましてお答え申し上げます。

○一八番（流山源次郎君） 資料を取りに行つてもらう丁寧な答弁に對して感謝いたしますが、私が言いたいことは、私どもがある有力なる線からキャッチした問題は、現在の館山湾の汚染度は、

大腸菌等におきましては海水浴に適してゐると、安全であるという事でございますが、その人の話によりますと窒素、磷とにかゝる海の生息物に対するものに対してはある程度非常に危険になるのが現実なんだと、これは決して市の方または県の役人さんが無理に隠したというわけではなくして、館山湾で働いてゐる各協同組合長から、あまりそういうことを大っぴらにしたらつては館山の魚の買い手がなくなるからということで口を封じられてゐるわけでございますが、たまたまきょう私がここでしゃべったことが知れたら、私非常に大変なことになるんですが、現実はそのうことなんです。

ですから、たとえば下水なり、どぶ川なりそこに何かしらの、市で終末処理場ができるまでの間に何か緩和してもらわなければ二、三年したら館山湾の魚を食べられなくなるという現実があるということを私は確信しますという有力な人に聞いたんです。現状では磷と窒素は抑えられているという事でございますから、この点についてたどろしよもないという事でなくて、何か少しでも漁業関係者に安心できるお答えがいただきたいと思ひます。

時間も大事でございますので、皆さんが私に最後になったために私の質問につきあつていただくので申しわけないんですけれども、その話は別にして、実は先ほど商港と漁港の二点について私が質問した内容は、実は昭和二十六年の七月十日ですか、船形が第三種漁港として決定された。当時は、いま合併しております。船形と館山はどちらも漁業人口が拮抗してありまして、館山の組合長さんは非常に怒つたわけです。船形が第三種漁港になつて国

の予算を大量に仕入れて、われわれ館山の漁民はなぜ三種になれないという事で盛んに船形が三種になつたことを怒つて、結局水産所長さんが、これは年月が長くなりましたので試験所長が大変心配いたしました、とにかく国、県にしても同じところに向かい合つて三種を二つつくるわけにいかないということで、苦しまぎれに県の指導等がございまして、館山は商港として予算だけ取っちゃえということで、あれは名前は商港ということですが、本当は漁業のもので、同じ予算を取ろうという事でできたものです。だから現在漁業が中心になつてゐるわけでございますが、ところが、試験所長さんもそれに知恵をつけたために、何か商港としての近いものに利用しなければいかぬということで、あそこを遠洋漁業基地として遠洋船を三崎に出航して、遠洋船を館山でやるといふ計画を立てたわけです。

ところが、皆さん御承知のとおり三十年、三十五、六年ぐらいまでは現在の自衛隊の演習所になっていますが、あの中に岸壁から百メートル空けた中にあぐりの倉庫、事務所がずっと並んでおつたわけです。そういうところを県は利用して遠洋基地の建物なり、そういう計画を立てたわけです。

ところが、自衛隊がヘリコプターが飛ぶのにああいふところに家があつてしまつたと、取り払ふということで、話し合ひでしようがなく、県では元の格納庫の跡とか、そういう官庁を払い下げして、わざわざ平屋の、あの家がヘリコプターが横に飛ぶなら話はわかるが、上に飛ぶ自衛隊に何でじゃまになるのかというけれども、何かあれがやはり航空問題の何か法律がありまして、結局だめだといふんでわれわれ漁民自体が移動せざるを得なかつた、

ですから、今後館山に商港があるから商港を利用するといってもどなたがりっぱなことを言っても、あそこはそういうわけで何にも利用できないんです。遠洋基地の建物、平屋のあぐりの倉庫があっただけでもじゃまだと、極洋船舶があそこに高いマストを立てたということ自体でだめだということになってしまえば、あそこは皆さんとしては商港として漁港も使っておるという内容も皆さんわからないから、商港は商港として使用するということを私は知ってもらいたいわけでございます。

それから、先ほど市長さんの御答弁で、水上機のそういう話はないということで安心をしたわけでございますが、もし水上機を許可されたら、仮りにいま漁民と漁業権の問題等あってヨットハーバー等の問題は不可能でございますが、将来話し合いがついて館山にヨットハーバーつくるとしたら、現在の水産実験所の下、それから先に行きまして沖の島の南口この二カ所しかないわけです。実際大型のものをつくるとしたら、沖の島の南側そういうわけで、あぐりの平屋建てでも飛行機が飛ぶにじまになるからというところで許可にならない。当然あそこはヨットハーバーの基地としてはバアでございます。水上機が出てきた場合には、ヘリでさえだめなものを、横に上らなければいかぬ水上機だったら館山のヨットハーバーはバアでございます。私はその点を漁業の実態として、いままでの苦い経験からそれを申し上げたいわけでございます。

あと、来ましたら、さっきの資料せっかく取りに行ったんですから、それを聞きまして私の質問はこれで終わります。

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午後三時三十三分 休憩
午後三時三十五分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○民生部長（鈴木 力君） 大変申しわけございません。海域の環境基準につきましては、窒素と磷につきましてはの基準というものは設けられておりません。

○一八番（流山源次郎君） 最後に要望したいと思いますが、漁民というべきものは非常に敏感なものでございまして、そういう先ほど私が言いましたことで、それのお答えもございませんでした。が、磷、窒素とか、そういうものを何とか応急措置でもいいから何とか緩和してもらいような線を今後研究していただきたいというのを要望いたしまして、私の通告質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、一八番議員君の質問を終わります。以上で、通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後三時三十七分散会

○議長（林 豊君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は、明十二月十五日午前十時開会とし、その議事は各議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件
一、行政一般通告質問

